

びじゅつって、すげえ! 2021-2022 Vol.2

美術は広いな、大きいな。

美術は広いな、大きいな。

目次

- 02 分野って、なんなん?
- 03 発足! OPAM美術部
- 05 自己紹介・美術って何?
- 06 積み木とモザイク
- 07 音を形に・色に
- 09 繰り返しの世界
- 11 即興と表現
- 13 インスタレーション制作
- 15 招待状をつくる & 撮影
- 16 なんと部活が延期と中止!
- 17 OPAM美術部コンサート 「美術」と「音楽」と「数学」のドッキング!
- 19 What's Museum? II お米とお酒を視る
- 20 泰輔のヌイグルミインスタレーション
- 21 Aコース 醸しの世界へようこそ
- 23 Bコース 道具の博物誌～農耕図絵馬から読み解く道具と暮らし
- 25 Cコース 大分県のお米～内成物語
- 27 子どものためのワークショップ/関連ワークショップ
- 29 未知っち、見ちっち vol.2 Color & Science
 - 其の一 花の色を視る～科学者と表現者の視点から
 - 其の二 花の色を科学する～結晶標本が語る色素の魅力
 - 其の三 色を探る・色を考える～歴史・科学・実践から綿臙脂を視る
 - 其の四 “白”から考える生命の色さかし
- 38 未知っち、見ちっち@教育普及活動展示/@生命のれきし/@手が語る
- 39 こんにちは。ちゃっぴーです!
- 41 INDEX 実施一覧

分野って、なんなん?

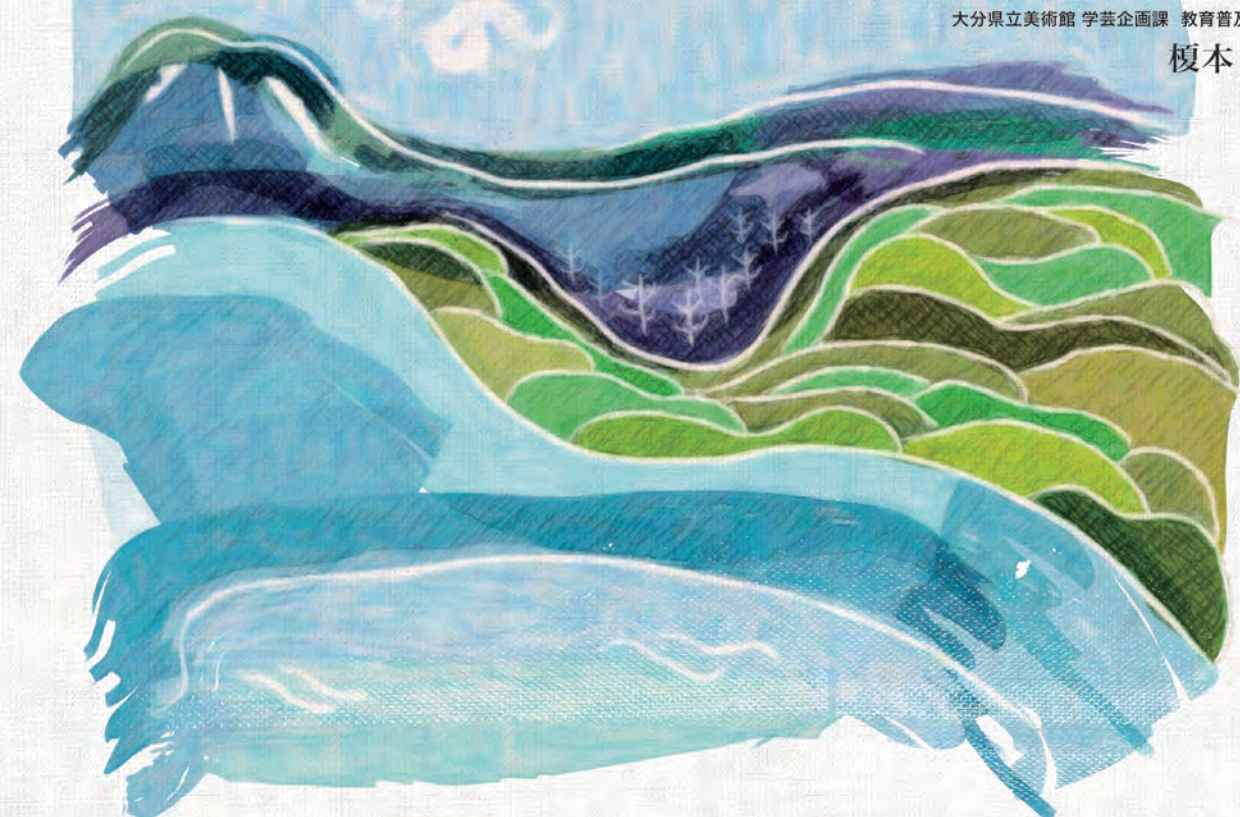
日々の暮らしで使われてきた手仕事の日用品の中に「用の美」を見出した民藝は、今まで見過ごされてきたモノから「美」を発見する視点があったから生まれた。山へ行き、新緑に包まれ、花を愛でる。川のせせらぎに耳を澄まし、海岸では碎ける波しぶきに驚く。そして動物や魚の姿、模様にも驚く。美術とは認識の拡大であり、美しいモノを美しいと感じる心。この視点に立つことにより、美術が好きな人が増えれば戦争はなくなると本気で信じた。

アーティストから制作現場の声を聴くと、素材や技術とひたすら向き合う場合もあれば、コンセプトのためにリサーチを徹底的に行う場合もある。素材や技術のことを知らなければ作品を造ることはできないし、コンセプトをはじめとした哲学がなければ、やはり作品を創ることはできないのだ。何かを想像し、創造し、表現していくためには、様々な要因が影響しあう。様々なモノ・コトを横断した視点は、やがて独自の視点、新しい視点につながるだろう。

教育普及では、自ら美を発見する独自の視点を得ることを、開館以来行ってきた。それは科学的視点や歴史的視点を美術的視点でとらえることであり、教材ボックスの制作とワークショップ、一見すると美術館主催とは思えない多分野の専門家を招聘してのレクチャー、美術と音楽の融合などである。今年度立ち上げた「OPAM美術部」の活動では、美術・音楽・数学をミックスすることを試み、「What's Museum? II お米とお酒を視る」では民俗資料や日常生活の断面を美術的視点でとらえること、「未知っち、見ちっち vol.2 Color & Science」では科学的視点と美術的視点が交差する企画とした。そして『びじゅつって、すげえ!』Vol.2では美術だけでなく、歴史や科学など他領域とされている分野を美術と融合させた企画を、記録的要素の強い「美術は広いな、大きいな。」としてまとめた。

様々な分野との出会いは、想像力をかき立てる。分野を横断し、身の回りの事象・現象や、様々な領域を美術的視点で視てほしい。視点が融合されると、新たな可能性が生まれる。

大分県立美術館 学芸企画課 教育普及室 室長
榎本 寿紀



START! OPAM ART CLUB

2015年、大分県立美術館の開館時に、県内の小学生全員を招待する「小学生ファーストミュージアム体験事業」で来館した小学生は、現在、中学生・高校生になった。小学生の頃には家族と来ていた美術館も、中学生・高校生になると、だんだん足が遠ざかる。県内には交通網が整っていない地域も多く、自分で行くのは難しい。さらに学校で美術に接する機会が少ないという声もしばしば耳にした。より多くの人に美術に親しんでほしいと願う教育普及室としては、かねてより美術部をつくりたいという想いがあり、今年度、新たな事業として、開館時の招待事業で来館した中学生、高校生を対象にした美術部をスタートすることにした。

内容は「美術の枠を広げる」を第一に考え、今年度は〈繰り返しの世界〉をテーマとした。雪の結晶やモザイク模様など、同じモノが繰り返されているモノ・コトはたくさんある。この繰り返しをいろいろな技法や素材で試し、形や色の連続、音の連続、さらに数学の規則性に触れる。特別講師は、2016年度と2020年度にOPAMで美術と音楽のワークショップを行ったミュージシャンの鈴木広志氏と小林武文氏に加え、近年は数学者としてSTEAM教育を研究するジャズピアニストの中島さち子氏にお願いした。「美術」「音楽」「数学」のドッキングだ。そして最後はみんなでインスタレーション（空間構成）を行い、そこでコンサートを開催する、という壮大な計画となった。

部員は20名で募集したところ、予想をはるかに上回り、36名もの応募があった。中には美術館の常連もいれば、出前ワークショップで会った子もいる。応募の時には美術部に対する「いきごみ」も書いてもらったが、「学校に美術部がない」「自分の思い通りの美術ができない」など切実な思いを綴るものもあれば、「なんとなく面白そうだから」という意見もある。この意気込み作文で選ぶ？それとも抽選にする？と真剣に議論した結果、気持ちを言葉で表現しきれない子もいるだろうと考え、何よりも「やりたいっ!」という気持ちを最優先して、最終的に全員を受け入れてのスタートとなった。

こうして発足した美術部だが、始まってみると、遠くから通うのは大変、人が多すぎる、コロナが心配、そして日程によっては学校の行事や試験と重なり休まざるを得ない、という部員もいた。しかしゆっくりとコミュニケーションを取りつつ、毎回活動を楽しみにする部員は冬休みにも個別に来館した。途中、新型コロナウイルス感染拡大により、何度か活動が中止となったが、予定より1ヶ月遅れてコンサートを開催。部活を精一杯楽しみながらコンサートができあがるまでの様子を、美術館ホームページ内のOPAMブログとともに見てほしい。



美術の枠を広げる

発足! OPAM美術部

美術
音楽
数学





自己紹介・美術って何?

#1

1回目

OPAM美術部がよいよ始まった。1回目は、どんな活動をするのか、保護者を交えてオリエンテーションを行う。スライドを使って今年度のテーマ〈繰り返しの世界〉の話をする、私も参加したいという保護者も多くいた。



はじめに、自分の名前をローマ字で書く。ここに線や色を描き加え、文字を建物に変身させる。全員の名前を並べて街のようにした。これを図形楽譜として、3回目の活動のとき、コバタケさん(p.7-8)が即興演奏することになった。

この日の活動はもう一つ。連続模様のウォーミングアップとして、切り紙細工を行った。切り紙細工の形は、色紙を折りたたんで切っていくため対称形になり、雪の結晶のようにも見える。大小カラフルな色紙をたくさんつなげて、アトリウムに吊るした。



積み木とモザイク

#2

2回目

2回目の前日、時間のある部員が準備に駆けつけてくれた。色画用紙を切って貼ってのモザイクづくりだ。試しに並べてみると、みんな明日が楽しみになった。



さて、この日のテーマはインスタレーション(空間構成)。モノで空間が変わることを体感するため、モザイク遊びと積み木遊びを行った。

モザイクは両面カラーで、円弧や対角線で色を分けているので、並べ方によってさまざまな模様ができる。そして木っ端の積み木、竹を薄くスライスして積層した竹積、川や海で集めた石積、さらに4万個のコップをみんなで積んでいく。一人て黙々と集中している部員やいつの間にか一緒に構造を考えながらつくる部員がいる中、ガラガラと一気に崩れて再びチャレンジする姿もあった。最後は空間全体に映像を投影。何もなかった場所が、まったく異なる空間へと変わった。





PROFILE



コバタケ/小林武文
●ミュージシャン

様々な打楽器類を演奏するミュージシャン。邦楽囃子方仙波清彦氏に師事し、国立劇場、歌舞伎座等で、邦楽・下座音楽を実践的に学ぶ。自身のグループ「琴鼓'n管」をはじめ、他ミュージシャンとのユニット、ゲスト出演のほか、TV・映画音楽の作編曲も行うなど、多方面で活動中。

3回目

3回目の部活は、コバタケさんの登場。コバタケさんは、1回目の活動日に描いた名前の街(p.5)を見ながら即興演奏を行った。抜群のパーカッションに、思わずリズムに合わせて身体が動いてしまう部員たちだった。



講師:小林武文

今回は、聴覚・触覚を活性化させて色や形にすることがテーマ。初めに目をつぶり、耳を澄まして聞こえる音に集中する。いくつの音が聞こえるか? だんだん身体感覚が活性化していく。その後は目隠しをしてのワークショップになる。硬い・柔らかい、ずっしり・ふわふわ、触り心地や重さの違う3種類の粘土を使い、コバタケさんの奏でる音に耳を澄まし、手のおもむくままに粘土を触った。そしていろいろな色や形や触り心地の素材を入れた特製ボックスから、これはと思うモノを使って作品制作を行う。途中から目隠しを取ってもかまわないが、最後まで目隠しにこだわった部員もいた。最後に7回目の活動で講師としてワークショップを行うヒロシさんも加わり、コバタケさんと一緒に、みんなの作品から即興演奏を行った。

〈聴覚〉から〈触覚〉、そして〈視覚〉、〈聴覚〉へ。時間の経過によりイメージが積層され、新しい音楽が生まれていく。



4回目、5回目は中止になりました

当初の予定では、4回目は「ミニマルなアート」と題し、美術の歴史や表現の多様性についてのお話、そして現代美術の中からミニマル・アートとミニマル・ミュージックを紹介する予定だった。また5回目「模様と版画」では、同じモノが繰り返される実践として、教育普及活動展示「What's Museum? II お米とお酒を視る」の中で、菌類をモチーフとした版画を制作し、会場中に貼っていくと考えていたが、新型コロナウイルス感染防止のため部活動は休みとなった。

#6

さっちゃんはジャズピアニストで作曲家だが、数学もとても得意。今回は、正四面体を使うワークショップを行った。はじめに正四面体の頂点に向けて線を引き、その線をハサミで切り開くと独創的なカタチが出現する。さらにその形を色紙でたくさんつくってつなげると、パターン同士はぴったり一致するから驚きた。

このパターンをもとに、さっちゃんの生演奏を聴きながら、大きな紙に並べてカラージュ&ドローイングを行う。なるべくぴったりと、一列に、円運動で、等々、思い思いに貼りながら、そこから生まれたイメージを描き足す。最後に、できた作品をもとに、飛び入り参加のコバタケさんとヒロシさんを交えて即興演奏を行った。「美術」と「数学」と「音楽」が入り混じった2時間だった。

講師: 中島さち子

繰り返しの世界



PROFILE



さっちゃん / 中島さち子
●ジャズピアニスト / 作曲家

現在は音楽・数学研究・STEAM教育・メディアアートにて国内外で多彩に活動。大阪・関西万博テーマ事業プロデューサー。Trio Mathemataにて数学×音楽の全国公演も行う。東京大学卒業、NY大学大学院ITP修士。株式会社steAm代表。



続いて色を使う。暖色系? 寒色系? 同色系? 補色? 絵の具同士を混ぜる? それとも画面の上で混ぜる? 筆は何本使っても良い。かすれ、にじみや、まき散らすことだって自由。しっかり音を聴きながら、筆と一緒に動かした。

ここでコバタケさんとさっちゃんが加わり、3人による演奏が始まった。部屋を暗くした中で、集中して音楽を聴くと、身体の中に印象がしみわたる。感覚的に受けていた印象に、曲から受けるイメージが加わり、全員で大画面に描き始めた。リズムに合わせて絵筆、ローラー、手足がまるで躍っているよう。アツという間に画面いっぱい、いろいろな音が描かれた。



即興と表現
講師: 鈴木広志

PROFILE



ヒロシ/鈴木広志
●ミュージシャン
サクソフォン奏者・作曲家。国宝《上杉本 洛中洛外図屏風》とのコラボレーションや、無声映画と活動弁士のパフォーマンスなど、コンサートの枠を越えた企画・演出・演奏で注目を集める。朝ドラ「あまちゃん」でも活躍。東京藝術大学卒業。

7回目

最初に使うのは墨だけで、筆は1本のみ。ヒロシさんの奏でる音を、リズムによって点で描く・音の長さに合わせて線で表現する・音の強弱に合わせて筆をふるわせてみる。やがてリズムにメロディが加わる頃には、自由な線が描けるようになった。

インスタレーション制作

8回目

8

コバタケさん、さっちゃん、そしてヒロシさんのワークショップが終わり、3人は部員たちがつくったモノから作曲を始めた。そして美術部では1月のコンサートのための準備の始まりだ。

昨年度、iichiko音の泉ホールで行った「音を描く、絵を奏でる」のコンサートの模様を見ながら、会場の雰囲気や想像する。アトリエにさっちゃんヒロシさんのワークショップでつくった画面を吊ったり（コンサート当日はステージ上に吊るす予定）、色紙テープやアルミ箔も吊ったりしながら、部屋の雰囲気を変えてみた。そしてデジカメでミクロとマクロの視点から撮影。この画像は、コンサート当日、舞台上に吊るした作品の上に重ねて投影する予定だ。

※この日、参加できなかった部員は、後日撮影、または自宅で作った画像を美術館に送ってもらい、一緒に投影することになる。





招待状をつくる&撮影

9回目

コンサートを行うiichiko音の泉ホールは700名以上の観客を迎えることができる。家族や学校の友達を招待するための、招待状づくりを行った。美術部の招待状は、缶バッジだ。「OPAM」という文字だけは入れることにして、あとは自由に描く。缶バッジはコンサート入場のチケット代わり。日時を書いた紙と一緒にバック詰めをした。

※この日に休んだ部員、そしてたくさん招待したい人は、冬休み期間に美術館へ来てつくった。

※前回休んだ部員は、デジカメを持って、コンサート当日に投影する画像を撮影。コバタケさんのワークショップでつくった粘土細工をはじめ、アトリエ内にある様々なモノを撮影した。



「なんと部活が延期と中止！」

新型コロナウイルス感染拡大のため10回目、12回目は中止

年が明け、成人式が過ぎたころ、全国的に新型コロナウイルスの感染者が増えてきた。大分県も例外ではなく、感染は急速に拡大した。「出前ワークショップ」や「びじゅつかんの旅・旅じたく」は相次いで中止となり、昨年度から行っている感性育成事業での「音楽と美術のワークショップ」におけるコンサートも延期となる。それらに合わせて美術部のコンサートも延期を決めた。

当初の計画では、コンサート当日はiichiko音の泉ホールに、さっちゃん、ヒロシさんのワークショップでつくった2点の巨大ドローイングを吊り下げ、コバタケさんのワークショップでつくった粘土細工等のオブジェを街に見立てて撮った映像を、部員が撮影(p.13-14)した写真と合わせて、その上に投影する予定だった。しかしコンサートの延期に伴い、会場はiichikoアトリウムプラザに変更となった。アトリウムプラザでは明るすぎ、映像を投影することはできない。そこで代わりに、ドローイン



グの余白の部分に色・形の連続模様を描き加えることにする。コンサート当日は、アトリウムプラザでは作品を囲むように客席を配置し、ディテールも見えて楽しめるように考えた。

ところが、新型コロナウイルス感染症まん延防止等重点措置の適用が決定され、コンサート準備のための美術部の活動はすべて中止。余白の部分へのドローイングさえも、できなくなってしまった。コンサートは開催できるのか、不安になった。

このページでは、当初コンサート本番で投影予定だった、部員の写真を紹介する。





2月20日にまん延防止等重点措置は解除され、2月26日、待ちに待ったコンサートの開催となった。場所はiichikoアトリウムプラザ。当初、舞台美術としてインスタレーションは部員みなで行う予定だったが、部員の活動は自粛。インスタレーションは美術館スタッフで行うことにした。さっちゃんのワークショップで制作した作品(p9-10)とヒロシさんのワークショップで制作した作品(p11-12)を、対面になるように2階から吊り、床に付いた画面上にはコバタケさんのワークショップで制作した粘土オブジェ(p7-8)に加え、切り紙細工とモザイク(p5-6)を並べる。ステージは真ん中で、客席は周り360度に配置した。

司会は美術部マネージャーのふみちゃん(西村文佳さん)。コバタケさんが登場しドラムを始めたところに、さっちゃんのピアノが加わる。すると2階からヒロシさんのサクソフォーンが聞こえ、エスカレーターに乗って登場。コンサートが始まった。



プログラムは、ワークショップで作品を制作するときに演奏した曲と、そのときにできた作品から生まれた新曲だ。新曲はどんなイメージで作曲したかを、それぞれに聞いていく。コバタケさんは、できあがったオブジェを見ていたら街に見え、そこから発想を得ての作曲。異国の情緒を出すために、ヒロシさんがサクソフォーンを二つ同時に奏するという超絶技巧的な演奏を披露した。さっちゃんは、みんなが作った作品一つ一つからイメージしての作曲で、流れるようにいろいろな曲調に変わった。ヒロシさんは、できた作品からだけではなく、制作過程もイメージしながら作曲。途中、即興を取り入れている部分もあり、3人ともソロパートでは手元を見ないで、作品を見ながら演奏した。こうしてアンコール曲を含めて1時間のコンサートは、拍手喝さいの中、終了した。

今年度のOPAM美術部の活動は、新型コロナウイルス感染防止対策により12回中、4回が中止となり、当初予定していた活動はできなかった。特に12回目は、3名のミュージシャンに感想を絵手紙にして送る予定だったが、中止になったのは残念だ。しかし何より、コンサートが実現できたことを、みんな喜んだ。とはいえ、中には他の予定が既に決まっていたり参加できなかったり、行動を控えた部員も少なくない。

そこで、美術館ホームページ内のOPAMブログで美術部の活動を紹介しているので、今回のコンサートもそこからみられるようにした。「美術」と「音楽」と「数学」がドッキングしていき、コンサートになった様子をぜひ見てほしい。



演奏 |
小林武文/ドラム・パーカッション
中島さち子/ピアノ
鈴木広志/サクソフォーン・マルチリード

曲目 |
ワークショップのときに使用した曲
《あばかん あばかん》作曲/小林武文
《みつばち》作曲/中島さち子
《Nadia》作曲/鈴木広志
ワークショップから作った新曲
《madina》作曲/小林武文
《繰り返す喜びの歌》作曲//中島さち子
《NuuN》作曲/鈴木広志
アンコール
《金の雲〜犬に追われて》/作曲/鈴木広志

美術×お米

What's Museum? II

お米とお酒を 視る

身近なモノ・歴史的なモノを美術的視点で視る「What's Museum?」の第2弾。今年度は〈お米〉にスポットをあて、お米を作るための道具、作っている風景、そしてできたお米から造られるお酒など、お米にまつわる様々なモノ・コトに、美術的・多角的な視点で迫った。

まずは大分県立歴史博物館の民俗資料から、お米を作るための農耕器具や生活雑器、大正5年に描かれた国東半島・中田歳神社の農耕図絵馬(複製)、そして写真家・竹内康訓氏が撮影した写真集『内成物語』から、「日本の棚田百選」に選ばれている別府・内成地区の農村風景を並べる。あわせて国立科学博物館の細矢剛氏が撮影した、お米からお酒を造るためのコウジカビや酵母など、身近な菌類の写真を壁一面にコラージュ的に展示した。さらに玖珠町の亀の井酒造から、新酒ができたことを知らせる杉玉(通常は2~3月に飾られる)と酒造りのための道具を、この時期は使用しないということで特別展示として協力をいただいた。またこれらの民俗資料と科学資料を美術的視点で結びつけるため、美術家・安部泰輔氏によるインスタレーションを試みた。



極めつけは、目を凝らすと、普段は眼にすることのできない菌類たちを至るところで見られる、という仕掛けを行ったことだった(OPAM美術部で制作するはずが、新型コロナウイルス感染防止対策のため休部となったので、OPAMサポーターがステンシルで制作)。基本的には廊下からガラス越しでの鑑賞だったが、日時を限定して、ガイド

スタッフと一緒に中に入っている鑑賞を可能にした。展示には極力キャプションを設けなかった。それはガイドスタッフと話をすることにより、モノについて、歴史について、形と機能について、思いをめぐらせてほしいという願いからだった。

この空間の中で講座が開催され、展示とワークショップが一体となった。



泰輔のヌイグルミインスタレーション



profile

安部泰輔(美術家)
古着や端切れを使って小さな立体(ヌイグルミ)を制作し、そのプロセスも含めて作品とする観客参加型のインスタレーションを、日本各地で展開する。豊和銀行の預金通帳やキャッシュカードに、おなじみのキャラクターがデザインされている。

今回の講座では、安部泰輔氏による菌類をモチーフとした布のオブジェを、アトリエ・体験学習室に吊るすというインスタレーションを行った。カラフルな色彩で質感の異なる布のコラージュによるオブジェは、壁に貼られた菌類の画像から、デザインのエッセンスとなる菌類を見つけることができる。

また農耕図絵馬の右上に描かれている狐(おそらく稲荷神社の神様の使い)をモデルに、ヌイグルミオブジェ「コン田」を制作。コン田が内成地区の棚田を訪れるシーンを、講座案内リーフレットのメイン・ヴィジュアルとし、展示の際には絵馬の前に鎮座させた。

これは宇治山哲平が子どもの頃に描いた絵から抜け出したライオンのヌイグルミオブジェ〈7歳の絵描きのためのオマージュ〉(2020)という安部氏の作品が発想の源になっており、アトリエ・体験学習室では展示しきれなかった資料とともに、情報コーナーのギャラリーで展示した。来館者と作品を結び付ける活動を行うアーティストの姿勢が表れたユニークな作品群で、民俗資料・科学資料を楽しく見るきっかけとなった。



What's Museum? II

お米とお酒を視る
Aコース

醸しの世界へようこそ

国立科学博物館で菌学を研究する細矢剛氏を迎え、日本の発酵文化にかかせない「醸しの世界」の話聞いた。ワインやビールをはじめとした酒類と日本酒の比較も交えながら、日本酒造りを中心に、歴史的な日本酒の起源や麹文化について紹介し、顕微鏡でコウジカビを観察した(モニターで参加者全員と共有)。肉眼では見ることのできない菌類を拡大すると、ガラス細工のように美しい。麴を味わうことや甘酒をなめてみるなど、五感で「醸しの世界」に触れた。

講師: 細矢剛 (国立科学博物館/菌学)



— 日本酒ってなんですか? —

日本酒の定義は「お米と米麴、および水を原料として発酵させて濾したもので、アルコール分が22度未満のもの(酒税法第3条第7号)」です。つまり材料はお米と麴と水。麴は穀物にカビを発生させたもので、米にコウジカビという菌を生育させたものです。

玄米を精米し、水に浸してから蒸す(蒸米)。そこへ種麴を接種して麴を造る。水と蒸米、それに酵母を足すと酒母ができ、さらに麴と蒸米と水を3段階に分けて加え、約20日間、発酵させる。できたものをろ過するとお酒の完成です。酵母は、今は加えますが、昔は蔵の中にいる酵母が自然と加わる(落ちてくる)のを待っていました。『日本山海名産図会』には江戸時代の麴造りがあります。江戸時代には日本酒の工業的な製法が確立してきました。



— コウジカビ? —

学名をアスペルギルス・オリゼ (*Aspergillus oryzae*、以下オリゼ) といいます。アスペルギルスというのはキリスト教・カトリックで聖水を撒くのに使われるアスペルギルムという道具に似ていることから。オリゼは、イネの学名に由来します。オリゼは自然界最強クラスの発ガン物質をつくるアスペルギルス・フラバスと区別できないくらい近い種です。しかしオリゼではアフラトキシンの遺伝子が壊れており、安全な種です。



— 2つの菌のイラストは、よく見比べないと微妙な違いはわかりませんね —

オリゼは、自然界にはもともと存在せず、日本にしかないもの。日本酒は、酵母もコウジカビも、眼に見えない生物を、日本人が改良してきた技術に支えられてできた。コウジカビはそういう生物。これが日本酒のすごいところです。

— コウジカビってすごいんですね —

日本酒以外にもコウジカビを利用してつくられるものが、食品から洗剤、ジーンズのデニム加工まで、実は身近にいっぱいあるんです。もともと伝統技術として一部の人が知らなかったものが、特許を取るまでに発展しています。

コウジカビを体感する

肉眼では見えない麴を、実物投影機で拡大して見てみると…

「麴は、米粒の全体をコウジカビが覆っているもので、お米が見えなくなってしまうくらい、カビがモアモアと、蜘蛛の巣のような糸状の菌糸で覆っています」



「見るだけでなく、味わってもらいましょう!」

「味覚を刺激して視覚情報を高める相乗効果です。食べてみると、ほのかに甘いつつに気がつくんじゃないかと思います。お米を覆うオリゼがアマラーゼを分泌して、お米のデンプンを分解しています」



さらに拡大。顕微鏡でコウジカビを見てみよう!

「あらかじめ用意した画像を見た後に、顕微鏡で見えます。菌糸はカビの体です。その先端にボール状のものが電球のように膨らみ、胞子をつくる細胞が並んでいます。ビール瓶みたいな形状で、そこから胞子が生まれています」



ずいぶんとのっぺりしているような感じだけど?

「顕微鏡は一部にしかピントが合わないのでこの写真は断面ですが、実際の構造は手前の方にも出てきます」

菌糸を見てみると…

「細長い細胞が分岐を繰り返しながら伸びていったものです。先端から酵素が出て、デンプンに作用して多糖を分解し、単糖にしてから吸収します(分解しないと吸収できない)。こうして増えていきますが、菌糸一本は数ミクロンで、栄養をため込む重要な役割があります」



「肉眼では見ることのできないコウジカビを、ミクロの視点で視ました。普段は見えないけど、身近にいっぱいいる菌類たちは、繊細な形をしていました。こんなふうにいるモノに目を向けると、さらに世界は広がることでしょう」



カビの観察や実験を紹介する図鑑を見ると、カビに対するイメージが一変する。国立科学博物館特製のペーパーモデル「コウジカビ」は、顕微鏡や写真で見ると平面的なイメージを、工作することで立体的にとらえることができる。



profile

細矢剛
1963年生まれ。大学卒業後、製薬会社の研究員を経て、2004年より国立科学博物館に勤務。専門は、菌類(きのこ、カビ・酵母)の分類や進化・生態に関する研究。動物でも植物でもない菌類の世界と、人間とのつながりをもっと知ってもらいたいと、展示や講演会などで、幅広く菌類の重要性をアピールしている。現在、国立科学博物館植物研究部長兼 筑波実験植物園長。日本菌学会会長。

お米とお酒を視る

Bコース

道具の博物誌～

農耕図絵馬から読み解く道具と暮らし

講師：菅野剛宏

(大分県立歴史博物館/民俗学)

大正5年に描かれた国東半島・中田歳神社の農耕図絵馬は、当時の風俗や農機具について伝えている。この道具は何のために? どうやって使う? 絵馬に描かれた農機具とアトリエ内に展示した実物を合わせて見ながら、大分県立歴史博物館の菅野剛宏氏に、当時の世相や暮らしぶりについて聞いた。



農耕図絵馬は四季耕作図で、原型は中国の稲作と養蚕と機織りを描く「耕織図」である。米作りの作業を一枚の画面に表現しているが、実際の様子を見て描くわけではなく、お手本になる絵があった。一方、絵馬は、神様にお願いするときに生きた馬を神馬として奉納していたものが、その後、生きた馬は大変なので、絵馬になった。

国東には農耕図絵馬が15面以上あり、主に江戸時代後期から明治にかけて多数制作され、大正時代に制作のピークを迎えた。農作業は実際の様子を描いたものもある。制作時期の遅いものには、その当時の農具や技法が見られ、様々な流行や風俗も描かれている。目的はさまざまで、豊作祈願や厄よけ、戦勝記念などである。

大正時代の国東半島では、厄落としのために神社に何かを奉納することが流行っていた。中田歳神社の農耕図絵馬は、「四十二歳記念」として大正5年に無聲という絵描きによって描かれた。国東の中でもっとも保存状態がよく、農作業以外のものも描かれているのが特徴となる。見ると楽しい。実際の様子を見て描いている描写も多く、当時の風俗を知る有力な資料になる。農耕図絵馬はお手本があるものなので、それが見え隠れしている部分もある。



【農耕】

1 耕起

犁(すき)を馬にひかせている。いろんなタイプがあり、これは四角構造の長床犁。



2 代掻き

モーガ(マンガ=馬鍬)による代掻き。犁で起こした土を、細かく砕くために行う。



3 水汲み

農耕図絵馬には桶を使って二人で水を汲んでいる場面が描かれているが、水を汲むための道具として当時足踏みで回す水車がよく使われた。



4 田植え

まっすぐ等間隔で植える正条植え。この田植えで苗はまっすぐ植えられ、除草に田押車が使われた。



5 除草

刈った草は土に混ぜ込む。田押車(右側男性が持つ)は、苗がまっすぐに植えられていないと使えなかった。



8 狐

稲荷神の使いで、田んぼの様子や米の出来具合を見に来たのでは、と思われる。

9 万石とおし

米とゴミを選別するため、粗密の異なる網の上を滑らせる。



【風俗】

a 学生帽

着物姿に学生帽は、当時の少年の典型的なもの。

b 鉄道

国東周辺では、明治44年に日豊本線が開通している。1両目は大勢の子どもが乗り、リボンやエプロンなど、洋装を部分的に取り入れた服装が目立つ。2両目では軍人がタバコを吸っていたり、少女がカメラのようなものをのぞいている。

c 郵便局員

明治42年制定の制服と同じで、丸い笠をかぶっており、描いた人は実物を見て描いていると思われる。

d 警官

サーベルを下げ、指をさして何かを注意している。漫画っぽく物語を入れた感じがする。

e 自転車

自転車は、もともと日本には曲芸や趣味の道具として入ってきたが、この頃は個人ではなく業務用が多かった。

f 大正期に流行した女学生のファッション

洋傘をさし、袴姿のハイカラさん。まさに大正期に流行した女学生のファッション。おそらく実際に国東の農村を歩いていたとは思えないが、都会の流行は地方でも知ることができた。

g 喉を詰まらせる男性

農耕図では必要のない場面。このシーンを描いた絵描きは、おそらくユーモアのセンスのあった人。

h 飛行機

この時代、飛んでいる飛行機を見る機会はまだまだ少なかった。この飛行機は飛ぶ形になっていない。

i 自動車と裕福そうな男女

相当なお金持ちでないとは持てない時代なので、業務用としてはあるけれど、個人で持つのは難しい。

j 兵隊さん

軍隊の行進。日清・日露戦争があり、徴兵制度もあったので身近な存在だった。

k 遠くには神社

厳島神社が描かれているが、実際には国東からは見えない。神社はあの世の象徴として描かれることがあった。

l 逢引する男女

人目をしのんで会う男女。この頃流行した小説や物語の影響を受けているのかも知れない。

m 馬小屋

小窓があって、誰かがのぞいている。絵の中には謎めいた人物も描かれる。

n 茶店

軍人さんがうどんか何かを食べて、犬がうらやましうに見ている。



profile

菅野剛宏
茨城県生まれ。大分県立歴史博物館と大分県立美術館の学芸課長をいったりきたりしながら、うさぎにさきく民俗や庶民生活史を中心に、大分県の歴史と文化を県内外に広めている。論文集『神・人・自然』では「農耕図絵馬に見る近代の息吹」を記している。現在、大分県立歴史博物館学芸調査課長。

What's Museum? II

お米と
お酒を視る

Cコース

大分県のお米～

内成物語



講師: 竹内康訓 (写真家)

原風景を撮る

昭和30年代の小学生の頃、家の手伝いで田植え、草取り、脱穀などを手伝った。大変で、子どもの頃の印象は決してよくなかった。そのような少年期の記憶があったが、大分の風景を写真に収めていくうちに、農業が生き生きとした記憶としてよみがえってきた。内成は浜脇から今では車で15分くらいだが、撮り始めた15年くらい前は、道も細くて30分くらいかかった。トンネルを抜けると違う世界に入る感じで、想い出が目の前に広がった気がした。子どもの頃の原風景である、農村の写真を撮っておきたいと思った。



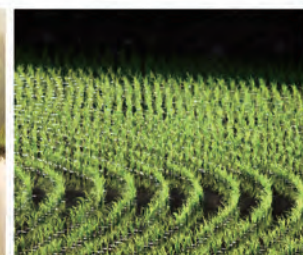
四季折々、
農耕図写真

田植えが終わった頃、霧が一瞬にして立ちこめ梅雨の時期に入った瞬間と出会った竹内氏は、出会いを求め、一年の棚田の風景を撮り続けた。



〈春が来る〉

2月中旬、野焼きが行われる。休耕田が増え始め、草木が生い茂ってきたので、野焼きをすれば景観も良くなり、害虫も駆除できるということで始まった。田植えの準備をはじめとした農作業の中、お昼前の11時にサイレンが鳴ると人はいなくなる。家は山の手であり、棚田からは遠くて時間がかかるので、合図は1時間前に鳴る。



〈初夏の水〉

初夏には田植えの準備のため水を張り、トンボを使って荒起こしから代掻きを行う。夜、その田んぼに月が映る。十三夜の田毎の月。田毎の月は、実際にすべての田んぼに同時に月が映るわけではない。田んぼ一枚一枚に映る月は、心で感じるものである。こうして内成棚田は水の惑星となっていく。夏祭り、そしてお盆が終わる頃には、青々と成長した稲に花が咲き、そよ風が受粉を助ける。



〈黄金色の秋〉

田んぼの畦に彼岸花が咲き誇ると、稲穂は色付き頭を垂れる。棚田が黄金色に染まり、実りの秋の到来だ。刈った稲を掛け干しすることで、旨みが増す。一方では、早くも田植えの準備「荒起こし」が始まる。



〈春を待つ冬〉

稲刈りが終わると藁こづみが姿を現す。新年には白い雪化粧が施されることもある。内成地区の棚田は南斜面を開墾しているため、日当たりが良い。雪が降っても、その日の午前中には消えてしまう。



profile

竹内康訓

写真家。桜の写真撮ること、生活と桜の結びつきから大分県の豊かさを再認識。仁聞菩薩遺跡「豊前豊後六郷山百八十三ヶ所霊場記」との出会いにより、国東半島170ヶ所の霊場を巡ることになる。そして「日本の棚田百選」に選ばれた内成地区は、幼少期に過ごした農村の記憶を思い起こさせると撮り続けた。大分にこだわり、風景や記憶までも写真の中にとじ込めて、次世代にこの素晴らしい大分を残したいと、大分の自然を撮り続けている。



中田威神社の農耕図絵馬には、かつての内成の農作業と同じ作業が描かれている。例えば馬が引いて田起こししていたり、トンボを使って平らにしている。

子どものためのワークショップ



〈What's Museum? II お米とお酒を視る〉は、歴史的資料と科学的資料を美術的視点で視ること、モノの見方、感じ方を広げていこうと企画した。テーマは「お米」。お米を作るときの農具や、お米を発酵させて造るお酒などに焦点をあてて構成したが、お米といえは稲藁を忘れてはいけない。展示の中では藁を大きく取り上げなかったが、子どものワークショップでは藁にまみれて体感するワークショップを開催した。

お米とお酒を視る
Dコース

藁にまみれて

4歳以上の未就学児とその保護者が対象のコース。集めると高さ1メートルほどの大きな山になる藁に寝転んだり、藁のシャワーをかけ合ったりするワークショップだ。初めに展示を巡りながら、中田歳神社の農耕図絵馬に描かれた農具と、実際に展示されているものを見比べた。その後、藁にまみれる。藁の匂いを嗅ぐと、お日様の匂いがするようだ。触ったり、潜ったりするとチクチク、カサカサ、フカフカ、心地よい。ほとんどの参加者は、藁に触れるのは初めてで、気持ちよさそうに寝転んだ。



お米とお酒を視る
Eコース

撚って編んで、何にする?

小学生が対象のコースは、さらにダイナミック! みんなで藁を抱えて一斉に投げ上げる。藁の山に飛び込む。山の下を突き進む。そして、思い切りねじって輪っかをつくってみたり、手のひらの中で2本の藁を同時に撚りながら長い縄状にしてみたり、さらにはまとめて結んで広げてみるなど、藁を使った造形遊びを行った。



関連ワークショップ

通常行っている「朝のおとなの1010講座」と「夜のおとなの金曜講座」も、この期間は番外編として、〈What's Museum? II お米とお酒を視る〉関連の内容を開催した。

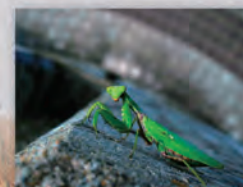
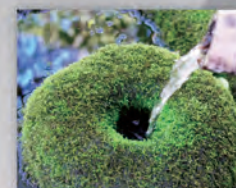
朝のおとなの1010講座



見えないけど、そこにいる。お米一粒には7人の神様がいます。それは水、土、風、虫、雲、太陽、そして作る人の7つの神さまでである。この7つをキーワードに、お米が作られるときに見られる自然の造形美を紹介した。そして、水しぶきや表面張力で盛り上がった水滴などの造形を見た後は、海の波や水面を描いた作品を見たり、耕された土の話の後は、日本中の土を採集してインスタレーションを行う作家の話をする。お米に関するだけでなく、「七人の神さま」といわれた自然などをコンセプトに制作された美術作品を紹介した。

「お米には七人の神さまが…」

番外編

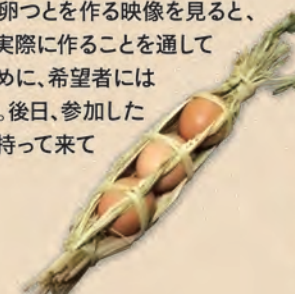


夜のおとなの金曜講座

番外編

「藁のパッケージ・卵つと」

主に東北地方の雪国で農閑期に作られる藁細工の中でも、卵を割れないように持ち運ぶためのパッケージ「卵つと」に焦点を当て、実演を交えながら紹介した。山形県庄内にて卵つとを作る映像を見ると、その手際の良さに驚く。実際に作ることを通して卵つとを知ってもらうために、希望者には藁を持ち帰ってもらった。後日、参加した高校生が、作ったものを持って来て見せてくれた。





未知っち、見ちっち vol.2
Color & Science

科学との出会い。芸術との出会い。
新しい未知との出会い。
国立科学博物館の専門家を迎え、
美術家とともに、科学の眼から、
表現の眼から展開される対談形式の
特別連続ワークショップ・レクチャー
「未知っち、見ちっち」の第2弾。
今年度は、色をテーマに
「Color & Science」と題して行った。

花の色を視る～
科学者と表現者の視点から

講師：村井良徳 (国立科学博物館/植物科学、環境適応学、化学生態学)

× 古屋絵菜 (染色家)

人間の眼と昆虫の眼。そして科学者の眼と表現者の眼。
それぞれの「眼」に、花の色はどのように映っているの
か。日本やブータンの高山植物をはじめ、様々な植物が
作り出す化学物質の多様性と機能を研究している村井
良徳氏と、花を描くときには徹底的に観察するのはもちろ
ん、ピンセットで分解して細かく見たり、口に含んだり
するなど、五感を花を感じ取りながら腸脳染めを行う染
色家の古屋絵菜氏を迎えた。



村井良徳

大学時代から山を歩き始め、出会った植物の生き様に魅了され、研究者になる。日本をはじめブータンなどでの高山植物のフィールド調査や、植物が様々な環境に適応するために作り出すフラボノイドなどの化学物質について、どの植物にどんな種類が蓄積され、植物体内でどのような働きをしているのかなどに着目し研究している。また筑波実

験植物園で、日本の代表的な植物やクレマチスなどの多彩な花々の展示や管理もしている。現在、国立科学博物館 植物研究部 多様性解析・保全グループ 研究主幹 兼 筑波実験植物園 研究員、標本資料センター コレクションマネージャー。



古屋絵菜

染色家。萬籟による染色家として甲州市の生家にアトリエを構えながら全国各地にて企画展などを開催。NHK大河ドラマ『八重の桜』のオープニングタイトルバックに作品が採用された。桜や桔梗、芥子、石楠花(シャクナゲ)、芍薬(シャクヤク)、パンジーなどのモチーフは、咲き誇る花だ

けでなく、花びらが散る様子や、散った後の花も題材にしている。近年ではアイスクリームの代表的メーカー「ハーゲンダッツ ジャパン」の限定パッケージとして、花びらが舞い散る『グリーンティ』を制作する。

前半は、花について、色の違いや人と虫にとっての見え方の違い、植物の化学物質などを村井氏が解説した。

私は高い山に咲く色鮮やかな植物たちに魅了されてきました。また環境の厳しい高山で、岩の裂け目にたくましく生きている「ど根性植物」を目にして、どうやってこんなところで頑張っているんだろう、どんな仕組みがあるんだろう、というふうに興味を持って、研究者になりました。

我々が見ている花と、昆虫が見ている花の色や模様は違うと考えられています。

植物は、様々な環境に適応していますが、それぞれの場所で、他の生き物とも関わりながら多様化してきました。

花を訪れるもののために花の色が多様になり、そこにはいろいろな色素が関わります。

後半は、古屋氏の作品を見ながら、展覧会の様子や作品制作において大切にしていることなどの話を聞いた。

見るだけじゃなくて、五感を使って作品をつくり上げていくことって、とても大事だと思っています。

花の触覚だったら、このサラサラ感を描く。香りは、どんな香り? 臭いのもあるんですよ。そこをどういうふうに表示していくかということを一通りしたあとに、作品の制作にはいきます。

五感で感じるには、自然の中にいるのが一番いいんです。音も香りも、触覚でも感じられるし、視覚的にも当然美しい。

小学生のときに朝顔を育てるけど、あれが最初に動植物と向き合うタイミングだと思います。そのときに、タネから芽が出て、子孫を残して死んでいくことを教わった。花は身近な存在で、魅力的でいろんな表情もあり花が咲くときれいだけど、そのはかなさをモチーフに作品をつくっています。

Q&A

古屋さん

高山植物と平地で育つ植物の大きな違いは何でしょうか?

村井さん

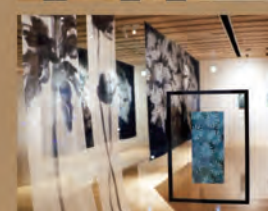
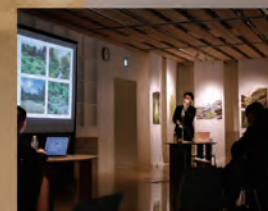
高い山はとても厳しい環境のため、植物体が比較的コンパクトになります。しかし花が小さくなってしまうと次世代を残しづらい。高山植物はコンパクトなわりに、花は大きくて目立つんです。また高山植物には、低地の温暖な気候が苦手なものが多いです。さらに低地の植物は成長が早く繁殖力も強いので、高山植物は競争の面からも低地に降りるのは難しく、高い山に生育するのでしょう。

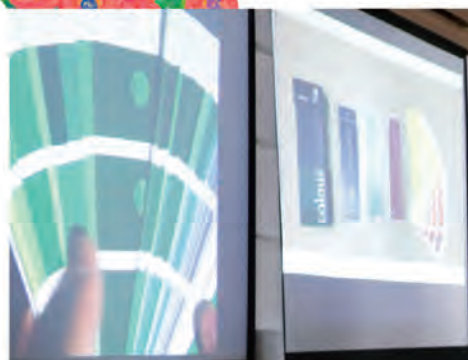
古屋さん

私は今、山梨に住んでいるんですけども、山梨って結構、山があるんです。その中でも高山植物が見られるオススメの季節と山を教えてください。

村井さん

日本で富士山に次いで標高の高い山が北岳で、植物の多様性が魅力です。北岳とその周辺でしか見られない固有種などもたくさん自生しています。北岳の有名な植物では、例えば、白く可憐なキタダケソウの花は、6月後半が見ごろです。7・8月は登山にも良く、様々な花が見られますし、9月もリンドウの仲間など秋の花がたくさん咲きます。山梨にいらっしゃるので、何度か異なる時期に見ていただくと良いと思います。





其の二

花の色を科学する〜 結晶標本が語る色素の魅力

講師: 水野貴行 (国立科学博物館/生物有機化学、園芸学) × 榎本寿紀 (OPAM)

花は昆虫や鳥などに受粉してもらうための、目印の役割を果たしている。そしてそのために、花には様々な工夫が凝らされている。ではその工夫とは? 「植物園に勤めていると、何がいかって、生きている植物材料がすぐに採れる環境にある。当然そのうち色素が取られているものって、本当に一握り。ほとんどの植物は花の色が調べられていない。未知の現象っていうのがどんどん出てくるんです」と、研究大好きな水野貴行氏に、「花の色素」「花の色の数」「花の色の仕組み」の話聞いた。難しい専門的な話を、大分県立美術館の榎本寿紀が、確認しながら進めていった。

植物の色素

「これは植物色素の結晶標本です。林孝三先生という方が生涯にわたって作りました。林先生は僕の師匠の師匠にあたり、植物に含まれている花の色素成分の研究をされた方です。結晶標本にすることで、いろんな植物と植物色素を比較したり、さまざまな研究で使えるようになります。構造式も手書きで書かれています。1本作るのも、当時はとても大変で、日光の紅葉しているカエデの木を2本切り、そこから精製してこの瓶の結晶を取ったという逸話があるほどです」

— 植物の色素には、どんなものがあるのですか? 葉っぱの緑も色素ですよね?

「植物の色素にはいくつか種類があります。一番有名なのはクロロフィル、葉緑素です。葉っぱの色ですね。カロテノイドという色素は、ニンジンのオレンジとか、レモンの皮の黄色の色素です。アントシアニンは、ブルーベリーやグレープなどに入っていて、目に良い成分だったりします。植物の中ではこの3つが三大色素と言われています。いわゆる植物の色に関わるものは、この3つが大きく関わっています」



水野貴行

2014年に東京農工大学連合農学研究科で博士(農学)を取得した後、宇都宮大学地域共生研究開発センター中核的研究員、農研機構構野菜花き研究部門任期付き研究員を経て、2017年より現職。2021年より茨城大学大学院農学研究科客員准教授を兼任。専門

は、園芸学、生物有機化学。フラボノイドの成分標本の維持・管理を担当している。現在、国立科学博物館 植物研究部 多様性解析・保全グループ 兼 筑波実験植物園 研究員。



榎本寿紀

目黒区美術館(東京)のワークショップ・エデュケーターとして、子どもから大人までの美術プログラムに関わる。2014年4月より、大分県立美術館学芸普及課教育普及グループのグループリーダーとして、大

分県へ転居。2015年4月の開館より、ワークショップ、レクチャー他この講座を企画・実施している。現在、大分県立美術館 学芸企画課教育普及室 室長。

「花を咲かせる植物は、この世界に37万種。それに対して、アントシアニンという色素は千種類くらいしか見つかっていません。僕が思うに、まだ半分くらいしか見つかっていないのではないのでしょうか。また、色素の種類が多いということは、持っている機能もさまざまと考えられます」

花の色の数

— 花の色は何色くらいあるのですか? どうやって見分けるのですか?

「花の色を研究する人は、この花の色はこういう色です、って言うように、客観的に示す必要があります。そのためにRHSカラーチャートを使います。英国王立園芸協会から出しているもので、世界共通です。この花はこの番号でこの色、というのがわかります。学術論文でも使いますが、800種類くらいに分けられています」

色の仕組みと調べ方

— さらに詳しいお話をお願いします。

「アントシアニンは、花の細胞の液胞の中に、水に溶けるようにして入っています。だから花の色を再現するには水に溶かす必要があります」「同じダッチアイリスでも、紫や青など花の色が違います。紫の花も青の花も、同じアントシアニンですが、色が違うのは、青い花にはフラボンという成分が入っているんです。紫の花の溶液にフラボンを足すと、青くなりました。物質同士が仲良く重なり合ったり、くっつき合ったりする分子間コピグメントっていう現象が起こって、青くなることができました」

— 身近にある同じ花でも色が違う場合がありますよね?

「紫陽花は土壌が酸性だと青、アルカリ性だと赤くなります。酸性の土壌では、土の中にアルミニウムが入っていて、それが溶けて植物の中に入ります。植物にとって有害なアルミニウムを液胞に閉じ込めるんですが、液胞に入っているアントシアニンと金属であるアルミニウムがくっついて青くなります。なんだか草木染の媒染に似ています」

— 色の変化を目の前で見たい!

「蝶豆の青い花のアントシアニンに、レモン汁(酸性)を入れると赤になり



ます。重曹(アルカリ)を入れると緑系の色に変わります。明礬(アルミニウム)を入れると色が濃くなった感じがします。金属がくっつくためには、アントシアニンの構造との相性があるって、色素の構造を見ないと相性の良し悪しはわかりません」

— 特別な色の花はありますか?

「ヒスイランという植物は緑色の花を咲かせます。この花の液胞はアルカリで、黄色の色素と青の色素が混ざっています」

— そもそも花の色素はなぜいっぱいあるのですか?

「花の色素は、昆虫や鳥に来てもらい、受粉を手伝ってもらうための目印です。次の世代を残すため、いかにアピールするかが大事です。受粉を手伝ってもらうための目印として、花にはさまざまな工夫があります。人間には同じに見えても、鳥なのか、昆虫なのかで見え方が違うのです。色素がいっぱいあるのは、そんな生存戦略の結果なのです」

— こうした研究は何のためにしているのですか?

「実験植物園での仕事は、植物の多様性を「知る=研究」「守る=保全活動」「伝える=学習支援」です。絶滅の危機にさらされている植物を栽培しながら知ったことを伝えていくことで、それは絶滅から守ることにつながります。植物の花の色のこと(例えば、酸性・アルカリ性の土壌で色が変わる)がわかると、花の色を人工的に作り出すこと(品種改良)につながります。保全を視野に入れつつ、植物園の強みを生かした取り組みができたらと思っています」



其の二

色を探る・色を考える～

歴史・科学・実践から綿臙脂を視る

講師: 沓名貴彦 (国立科学博物館 / 材料工学、保存科学) × 沓名弘美 (絵画技法材料研究家、日本画家)

綿臙脂は深みのある赤い色を指すが、美術工芸での綿臙脂は、「綿臙脂」として、円盤状の薄い綿にラクカイガラムシ由来の赤い染料を染み込ませた色材のことである。奈良時代から近代まで、中国から日本に入ってきて、化粧品や絵の具、染料などに用いられていた。その「綿臙脂」を共同で研究している沓名貴彦・沓名弘美夫妻に、話を聞いた。綿臙脂の化学成分や歴史、葉や化粧品として使われていた経緯など、科学技術史・人文的な視点からみた綿臙脂について、そして綿臙脂の再現についてのお話に、驚くばかりの参加者だった。

綿臙脂とは

綿臙脂の主な原料は、平賀源内『物類品彙』や現存する綿臙脂の分析より、ラクカイガラムシから抽出した赤色素であることがわかっていく。しかし近代になり、合成染料が普及して、その製造は1950年に途絶え、製法が文献に残るだけになる。今では戦前からの綿臙脂の在庫品を使うが、長期間、倉庫に置かれていたデッドストックの綿臙脂を分析すると、ラクだけのものもあれば、ラクとコチニール(南米原産のカイガラムシでラクと同じような色材)が混ざったもの、そして合成染料のものもある。



ラク 3種
中国雲南省産、ブータン産(真ん中)



胡桐涙 コトカケヤナギの樹液
中国 タリム盆地(南疆)産



綿臙脂 沓名弘美/2021
ラク、木瓜、山醫葉

綿臙脂の起源

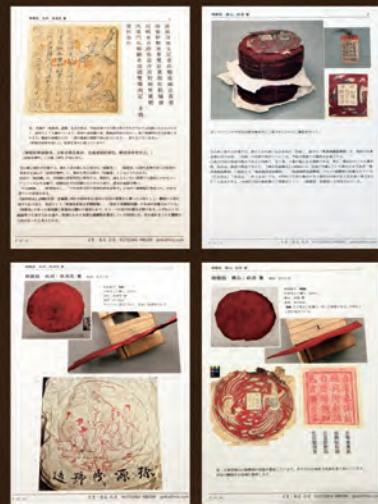
綿臙脂という言葉の意味やその起源を調べてみると、嘘や間違いが混同し、実物を研究せず文献を孫引きしたものが多く、

7世紀にはラクカイガラムシの色素を利用した綿臙脂が、「綿臙脂」として歴史に登場する。

他にも、中国の代表的な本草書『本草綱目』(1578年)の中に、紅藍花(紅花)、山臙脂花(未詳)、山榴花(ザクロ)、紫鉞(ラク)の4種の綿臙脂が記述されている。しかし異なる時代の記述からなるため、『本草綱目』が出版された時代に4種類あったわけではない。

絵画技法材料の絵の具だけを集めた『繪事瑣言』という本の中には、中国の杭州で作られた綿臙脂がとても高級で、これを使うべきであるということが書かれている(1797年)。

日本では、正倉院で光明皇后の薬種献納が行われた際に、紫鉞という名前でラクが献納された記録が残り、実物が現代に伝わっている(756年)。



織物 / 作者不詳
ブラ(ロウシルク)、ラク、藍
カムニ おんぶ紐 / Ms パルダン
ラク、茜、藍、鬱金



模写 紅白芙蓉図(紅)
沓名弘美 / つくば市、絹本彩色
※芙蓉の赤はコチニール。この
模写をきっかけに綿臙脂の研究
を始めた。



ブータンでの染色実習
2010 タシガン県ランジュン村



綿臙脂をぬった「しおり」

綿臙脂の再現

古代中国の医学書「外台秘要方」には、「崔氏造臙脂法」として、崔知悌による綿臙脂の処方書が引用されている。これを見ると、綿にラクを染み込ませた綿臙脂、とある。本誌が書かれたのは752年。著者の王焘は唐の貴族だったが、病弱だった母のために医術を学び、歴代の医業の文献をまとめて本誌を編纂した。崔知悌は出産で妻を亡くし、後世のための医学書を書かすにはいられなかったという。

当時、化粧品として使われていた綿臙脂が薬とともに記されていたのは、美容は精神の安定や健康に不可欠であると考えられていたため。沓名夫妻は、色材の再現にあたり、色に託された古代の人の心情を受け止めることは大切と考え、研究を行っている。

弘美氏はブータンの中央部と東部で染色の調査と実習を行っており、そこで見た染色の様子を紹介した。村によって異なる方法だった。

「崔氏造臙脂法」に基づく綿臙脂の復元工程を紹介する。どんな材料を用いたのか、その材料はどこで入手したのか。試作を繰り返しての復元は、ブータンで取材した方法を参考に改良して進められ、ついに綿臙脂の濃縮液が完成した。

綿臙脂の濃縮液を紙に塗り、しおりに仕立てられたものが、お土産として参加者全員に配られた。



Profile

沓名貴彦

山梨県立博物館の学芸員を経て、2014年より現職。材料を中心とする科学技術史を専門に、人間が生み出した様々なモノを未来に伝えること、材料の誕生と発展が社会や歴史に及ぼした影響について研究している。今回は、失われた材料の復活を目指す中の一

として、綿臙脂再現の研究を行っている話を聞くが、日本における非鉄金属生産技術の発展過程を科学技術史的視点から研究するため、大分県へは中世大友府内町跡の出土品調査に度々来県している。現在、国立科学博物館 理工学研究所 科学技術史グループ 兼 産業技術史資料情報センター 研究主幹。



Profile

沓名弘美

絵画技法材料研究家・日本画家。日本で日本画の古典技法と保存修復を、中国杭州市に留学して工筆の花鳥画を学ぶ。在学時より、東洋絵画の古典的な色彩の再現に不可欠な「綿臙脂」の研究を続ける。中国、インド、ブータン等で文献調査、実地調査を行い、各

料を集め、試作を行う。論文「化粧品としての綿臙脂」、「綿臙脂の再現にむけて」を発表する。また、紅型の特徴的なピンク色の「花色地」の表現に綿臙脂が最も適することから、古紅型の復元製作等に綿臙脂の研究で協力した。現在、沖縄県立芸術大学 非常勤講師。



其の四

“白”から考える生命の色さがし

講師：真鍋真 (国立科学博物館/古脊椎動物学) × 佐野藍 (彫刻家)

恐竜はどんな色をしていたのか。空想上のドラゴンはどんな色なのか。最終回は、恐竜博士の真鍋真氏と大理石を彫る彫刻家・佐野藍氏の対談で、科学者の視点と彫刻家の視点が交差した。科学と芸術という二人の視点の違いは、ミニ・ワークショップで参加者にも投げかけられる。絵本『せいめいのれきし』(バージニア・リー・パートン著/1962)も朗読しながら、「白い生きもの」「恐竜の色」「卵の白」の話について盛り上がった。



真鍋真

横浜国立大学教育学部卒業後、米イェール大学大学院修士課程、英ブリストル大学大学院博士課程修了。国立科学博物館地学研究部研究官を経て、現職。博士(理学)、古生物学者。専門は古脊椎動物学。恐竜など、中生代の爬虫類、鳥類の進化を研究しながら、化石からの進化を少しでも理解しようと、化石と心の中で対話する日々を送っている。



白い生きもの

佐野氏は自らの空想世界アルピオンに住むドラゴンや幻獣をモチーフに制作しているが、その世界は全てが真っ白という設定である。白い大理石は光の陰影により、形を追いつける制作に適しており、さらに石の白さに神秘的な感じがして惹かれ、制作していると言う。真鍋氏は、環境に適応したシロクマや、先天的にメラニン色素が欠乏しているために白くなったアルビノなど、白い生物の存在から、白いドラゴンたちの意味について興味があった。

真鍋さん

生物が生きていく中で、体が白ってことの方が有利になったりする環境は必ずあるんだけど、佐野さんの作品はどうして白なのかな。

佐野さん

科学的な話じゃなくて、作家としての、すごく自由なところですよ。自由さというものが白という色で象徴されているのになって思っています。



「科博の恐竜の先生」。著書に『深読み! 絵本『せいめいのれきし』(岩波書店)、『恐竜博士のめまぐるしくも愉快な日常』(ブクマン社)などがある。その他、恐竜の図鑑や本の監修、博物館展示・展覧会の監修を数多く手掛ける。現在、国立科学博物館 副館長・研究調整役、標本資料センター コレクションディレクター。

恐竜の色

もともと白である恐竜の骨も、化石になる過程で汚れて黒や茶色になる。このためウロコや羽毛の色を調べても、恐竜の体表の色なんてわからないと考えられていた。しかし2010年、アンキオルニスという「羽毛恐竜」の全身の色が推定された。羽毛の化石を電子顕微鏡で拡大して見ると、いろいろな粒状構造が見える。鳥の羽毛と同じ倍率で見ると、メラニン色素に関連したメラノソームの構造だったことがわかった。粒状構造の形、大きさ、密度を現在の鳥類の羽毛と比べることで、羽毛の色が推定できることがわかってきた。しかしメラノソームは繊細で化石として残りづらいので、色がわかっている恐竜はまだ10種類くらいという。



佐野さん

わからなかったところから、何か一つのことがきっかけで、推理小説みたいにとんちこち組んで、姿がわかってくるっていうのはすごく面白いです。サイエンスのプロセスが芸術と共通しているところは、イメージーションの部分ですね。

真鍋さん

興味をもってよく観てみる。脳の刺激とか、心の踊り具合とか、そういうところは芸術と共通するものがあるんです。



佐野藍

彫刻家。幼いころ、茂みの中で見つけたニホトカゲの存在に心を奪われ、以来、爬虫類やドラゴンなど「幻の存在」である幻獣の絵を描く。その後、大理石の持つ神秘的で強い存在感と幻想的な雰囲気惹かれ、脳の中にある漂うモノ、幻の存在を自分の目の前に強く具現化させてみたいと、神話や伝説に登場する幻

卵の話

2020年、最初の恐竜の卵の殻は、ニワトリやワニみたいに硬くなくて、ヘビやトカゲみたいに柔らかかったという発見が論文になった。恐竜進化の中で、卵の殻が硬くなる進化は3回ほどあったと考えられている。また鳥の卵には色や模様がついているので、恐竜が鳥に近くなったあたりで、いろいろな色や模様がつき始めたと考えられている。ワニや爬虫類の卵は基本的に白である(産んだ後、土に埋めてしまうので、色や模様に凝っても意味がない)。鳥に近い恐竜の卵を見ていると、薄い緑色みたいな色があったので白ではないことがわかってきた。カモフラージュ効果で卵が緑だとしたら、まわりに植物があるような、目立たなくて有利になるような環境で巣作りをしていたのではないだろうか。

真鍋さん

ヘビのシリーズと卵の作品を拝見して、恐竜と繋がるどころと、恐竜と違うなっていうところがたくさんあると思いました。

佐野さん

私は柔らかい卵でドラゴンをつくと珍しいと言われます。恐竜の映画などで見るのは硬くて白い卵のイメージがあります。色っていう意味で言うと共通しているけど、質感という意味ではちょっと特殊なことをやっていると思っていたのですが、まさか恐竜の方が寄せてくるとは。

真鍋さん

卵を産んでいた環境とか、恐竜の生活していた環境とかを一つのきっかけとして、さらに新しい気づきに一步踏み出せるとしたら、それはすごく大きな一歩になると思う。



**作品から**

真鍋氏から「佐野さんの作品で気になった生きものがいるので、皆さんにそのぬり絵をしてほしい」という提案があった。そして、どんなところで生活しているかを想像してまわりの風景を描き、学名までつけてもらった。

真鍋さん

オスとメスで色が違ったかもしれません。子どもと大人で色が違ったかもしれません。夏毛と冬毛で色が違ったかもしれません。緑の森にするのか、砂漠にするのか、氷の世界にするのかで、色が違ってくるっていうようなところを、ひとつサイエンス、科学的な側面として、そういうことも考えながら色をぬってください。

佐野さん

自分の作品がここまでカラフルに彩られている、いろんな色の子を見ることのできるっていうのは、作家としても恵まれた状況だなと思います。

ぬり絵をしたり、学名を考えることは、生活環境に左右されて色や模様が変わるかもしれないという科学的側面で描くか、自由に好きな色をぬるといふ美術的側面で描くか、という違いを投げかけることである。科学と美術が近づいたミニ・ワークショップになった。

佐野さん

この作品は《チーキー・カイト》っていう名前をつけています。チーキーっていうのは生意気って意味で、カイトは凧揚げの凧。私の中でこの子は、とあるファンタジーの主人公の肩にいつも乗っているんです。どこか自分の興味の示すところに行くときは風の力を使って飛ぶ。滑空をしたりとか。ドラゴンなので、上昇気流を使ってふわふわと飛んでいくようなイメージで制作しています。

真鍋さん

上昇気流を利用して空を自由に飛べるって聞くと、上昇気流のためには海面が温められることが必要だったり、上昇気流をつかまえる面が小さいから体が小さくなきゃいけない、とか感じました。でもこれを見たときに、誰も空を飛ぶって予想しないんじゃないかなとも思いました。いろいろな見方をするって楽しいですね。この子の名前を聞いて、「チーキー」っていうのはイタズラ好きのことだけでなく、頬のことも指すと思いました。頬って基本的に哺乳類で進化した組織で、爬虫類や鳥には頬がありませんが、恐竜の中には頬があったと考えられているものがあります。ぬり絵を見ると、この子に爬虫類じゃなくて哺乳類らしさを感じた参加者の方が何名かいらっしゃいました。頬のところの感じを見て、爬虫類とちょっと違うなってご覧になった方がいると思うとすごいです。



未知っち、見ちっち@ 教育普及活動展示



講座に参加できなかった人にも見てもらいたい。「未知っち、見ちっち vol.2 Color & Science」の記録写真と、講座で登場した資料や講師の作品を展示した。《チーキー・カイト》のぬり絵コーナーもあり、年末年始に多くの人が楽しんだ。



未知っち、見ちっち@ 生命のれきし

超巨大火山と生命進化の謎～地球規模の超巨大噴火が生命進化を加速させた?



講師:佐野貴司

(国立科学博物館 地学研究部 鉱物科学研究グループ グループ長)

46億年もの地球の歴史と生命の歴史をたどる、国立科学博物館の巡回展「生命のれきし—君につながるものがたり—」に関連して開催。生物の大量絶滅から人類の進化まで、地球と生命の進化に影響を与えた超巨大火山についての話を聞いた。

Profile

日本学術振興会特別研究員(研究従事機関:京都大学)、富士常葉大学環境防災学部研究助手・助教授、国立科学博物館地学研究部研究官・研究員・研究主幹を経て、2015年より鉱物科学研究グループ長。専門は火山学および岩石学。主な研究対象は超巨大火山。著書に『地球を突き動かす超巨大火山』『海に沈んだ大陸の謎』(講談社ブルーバックス)などがある。

未知っち、見ちっち@手が語る

私の手からみる
「私」と「ヒト」
の歴史

講師:坂上和弘

(国立科学博物館 人類研究部 人類史研究グループ長)

手にはさまざまな情報が詰まっている。自分の手を型取りして観察したり、手の血管、筋、骨、指紋についての話を聞きながら、「ヒトの手とサルの手」「進化の手」「個人の手」の構造や機能について考える。

『未知っち、見ちっち@生命のれきし』として、「植物から探る生命のれきし」(講師:矢部淳/国立科学博物館 地学研究部 生命進化史研究グループ 研究主幹)を予定していたが、まん延防止等重点措置に伴い、中止した。

こんにちは。
ちゃっぴーです!



私、ちゃっぴーは教育普及のマスコットキャラクターです。全国の美術館を訪ねたり、出前ワークショップに行ったり、OPAMブログを書いたり、これでも結構、忙しいんです。私の仕事の写真とともに、モデルになった山本常一さんの作品とのツーショットも載せました。わかるかな?



INDEX 実施一覧

一般向けワークショップ&レクチャー

朝のおとなの1010講座

場所:OPAM 2Fアトリエ
対象:大学生から一般

一視るは楽しい教材ボックス一

- [ガラスのゆくえ]
日時:2021年6月8日(火)10:10~11:10
参加者:11名
- [タネのカタチ~したたかな造形美]
日時:2021年6月22日(火)10:10~11:10
参加者:8名
- [触ると触れる 木・石・金属・布・土]
日時:2022年3月18日(金)10:10~11:10

一大分県から絵の具をつくる一

- [天然マダーレーキ]
日時:2022年1月19日(水)10:10~11:10
参加者:10名

一美術からみた文化一

- [ちゃっぴーと美術館に行こう!]
日時:2021年4月9日(金)10:10~11:10
参加者:10名
- [あ。これは!日本美術編]
日時:2021年5月11日(火)10:10~11:10
参加者:16名
- [あ。これは!西洋美術編]
日時:2021年5月25日(火)10:10~11:10
参加者:15名
- [ありえない?超現実世界への誘い]
日時:2021年7月2日(金)10:10~11:10
参加者:12名
- [幕末エキゾチック・ジャパン]
日時:2021年7月16日(金)10:10~11:10
参加者:17名
- [動物大好き♡絵画編]
日時:2021年8月6日(金)10:10~11:10
参加者:7名
- [人形(ひとがた)の佇まい]
日時:2021年9月3日(金)10:10~11:10
参加者:7名
- [ちゃっぴーと美術館へ行こう!+α]
日時:2022年2月20日(日)10:10~11:10
参加者:10名

一素材と技術一

- [型と版~連続模様と分身の術]
日時:2021年11月28日(日)10:10~11:10
参加者:12名
- [板締め絞りの連続模様]
日時:2021年12月9日(木)10:10~11:10
参加者:17名
- [刷り実演!凹版の魅力]
日時:2022年2月5日(土)10:10~11:10
参加者:14名

一番外編一

- [OPAM作品に棲む動物たち]
日時:2021年8月20日(金)10:10~11:10
参加者:5名
- [お米には七人の神さまが...]
日時:2021年10月8日(金)10:10~11:10
参加者:13名

夜のおとなの金曜講座

場所:OPAM 2Fアトリエ
対象:中学生から一般

一視るは楽しい教材ボックス一

- [ザ・鉱物]
日時:2021年4月2日(金)18:30~19:30
参加者:10名
- [ザ・植物]
日時:2021年4月16日(金)18:30~19:30
参加者:12名
- [ザ・炭酸カルシウム]
日時:2021年5月14日(金)18:30~19:30
参加者:10名
- [素材いろいろ、技術もいろいろ]

日時:2021年5月21日(金)18:30~19:30

- 参加者:11名
- [ザ・鉱物 瑠璃]
日時:2021年6月4日(金)18:30~19:30
参加者:22名
- [ザ・鉱物 群青]
日時:2021年6月11日(金)18:30~19:30
参加者:22名
- [ザ・鉱物 辰砂]
日時:2021年6月18日(金)18:30~19:30
参加者:17名
- [ザ・炭酸カルシウム 貝の唄]
日時:2021年6月25日(金)18:30~19:30
参加者:15名
- [伝説の?キング・クリムゾン???]
日時:2021年7月9日(金)18:30~19:30
参加者:16名
- [ザ・鉱物 硫黄と石黄]
日時:2021年7月23日(金)18:30~19:30
参加者:17名
- [ザ・鉱物 孔雀石]
日時:2021年7月30日(金)18:30~19:30
参加者:19名
- [炭酸カルシウムのカタチ② 彫刻編]
日時:2021年11月19日(金)18:30~19:30
参加者:16名
- [植物の色、植物で色]
日時:2022年2月4日(金)18:30~19:30
参加者:5名
- [触ると触れる 木と石の魅力]
日時:2022年3月25日(金)18:30~19:30

一大分県から絵の具をつくる一

- [鮮やかな青・フルシヤンブルー]
日時:2021年8月20日(金)18:30~19:30
参加者:9名
- [ブラックいろいろ]
日時:2021年8月27日(金)18:30~19:30
参加者:13名

一美術からみた文化一

- [あ。これは!抽象絵画編]
日時:2021年5月28日(金)18:30~19:30
参加者:19名
- [ミンクイ・コトウ・エトセラ]
日時:2021年7月16日(金)18:30~19:30
参加者:18名
- [動物大好き♡彫刻編]
日時:2021年8月13日(金)18:30~19:30
参加者:10名
- [難解?現在美術と現代美術]
日時:2021年9月3日(金)18:30~19:30
参加者:21名
- [モデルと作品]
日時:2021年9月10日(金)18:30~19:30
参加者:19名
- [神は細部に宿る]
日時:2021年10月29日(金)18:30~19:30
参加者:16名
- [ちゃっぴーと美術館へ行こう!2021]
日時:2021年12月10日(金)18:30~19:30
参加者:9名
- [バトンタッチ、丑から寅へ。]
日時:2021年12月17日(金)18:30~19:30
参加者:16名
- [宝物、盛りだくさん]
日時:2022年1月14日(金)18:30~19:30
参加者:18名
- [この絵を描いた人]
日時:2022年2月18日(金)18:30~19:30
参加者:14名
- [手に注目!作品の中の手]
日時:2022年3月4日(金)18:30~19:30

一素材と技術一

- [蘭玉からの。]
日時:2021年7月2日(金)18:30~19:30
参加者:22名
- [腸縁の魅力]

日時:2021年10月22日(金)18:30~19:30

- 参加者:23名
- [刷り実演!孔版・ステンシルの魅力]
日時:2022年2月25日(金)18:30~19:30
参加者:11名
- 一番外編一
- [国立科学博物館からやってきた哺乳類]
講師:吉田浩太郎(大分県立美術館 学芸企画課 主幹学芸員)
場所:OPAM 3F企画展示室
日時:2021年8月6日(金)18:30~19:30
参加者:28名
- [菓のパッケージ・卵つと]
日時:2021年9月24日(金)18:30~19:30
参加者:20名

どなたでもワークショップ アトリエ・ミュージアム みんなでつくろっ!

- 場所:OPAM 2Fアトリエ
対象:どなたでも
- [とびらの中には...]
日時:2021年4月3日(土)10:30~12:30
参加者:37名
- [炭酸カルシウムのカタチ② 14:00~16:00]
日時:2021年4月3日(土)14:00~16:00
参加者:10名
- [ハネバネめいろ]
日時:2021年4月4日(日)10:30~12:30
参加者:30名
- [触ると触れる 木と石の魅力]
日時:2021年4月4日(日)14:00~16:00
参加者:26名
- [空とふ魚の大冒険]
日時:2021年4月10日(土)10:30~12:30
参加者:9名
- [2021年4月10日(土)14:00~16:00]
日時:2021年4月10日(土)14:00~16:00
参加者:19名
- [ミニボコぼーん]
日時:2021年4月11日(日)10:30~12:30
参加者:14名
- [2021年4月11日(日)14:00~16:00]
日時:2021年4月11日(日)14:00~16:00
参加者:12名
- [たたんで、ひらいて、きて、ボン!]
日時:2021年5月8日(土)10:30~12:30
参加者:7名
- [2021年5月8日(土)14:00~16:00]
日時:2021年5月8日(土)14:00~16:00
参加者:13名
- [イミテーションカーネーション]
日時:2021年5月9日(日)10:30~12:30
参加者:18名
- [2021年5月9日(日)14:00~16:00]
日時:2021年5月9日(日)14:00~16:00
参加者:24名
- [お野菜ハット]
日時:2021年5月23日(日)10:30~12:30
参加者:8名
- [2021年5月23日(日)14:00~16:00]
日時:2021年5月23日(日)14:00~16:00
参加者:18名
- [流れ星、この指と一まれ!]
日時:2021年5月30日(日)10:30~12:30
参加者:7名
- [2021年5月30日(日)14:00~16:00]
日時:2021年5月30日(日)14:00~16:00
参加者:6名
- [咲けさけ!アジサイ]
日時:2021年6月6日(日)10:30~12:30
参加者:20名
- [2021年6月6日(日)14:00~16:00]
日時:2021年6月6日(日)14:00~16:00
参加者:19名
- [サンデマンデカンティエ]
日時:2021年6月27日(日)10:30~12:30
参加者:43名
- [2021年6月27日(日)14:00~16:00]
日時:2021年6月27日(日)14:00~16:00
参加者:19名
- [星にねがいを]
日時:2021年7月4日(日)10:30~12:30
参加者:27名
- [2021年7月4日(日)14:00~16:00]
日時:2021年7月4日(日)14:00~16:00
参加者:14名
- [暑中見舞い申し上げます]

日時:2021年7月10日(土)10:30~12:30
参加者:31名
日時:2021年7月10日(土)14:00~16:00
参加者:20名
[よこそ1うちわ堂]
日時:2021年7月17日(土)10:30~12:30
参加者:36名
日時:2021年7月17日(土)14:00~16:00
参加者:29名
[アニマルシップ2525号]
日時:2021年7月22日(木・祝)10:30~12:30
参加者:23名
日時:2021年7月22日(木・祝)14:00~16:00
参加者:15名
[黒猫撫撫(くろねこひょうぶ)]
日時:2021年7月23日(金・祝)10:30~12:30
参加者:21名
日時:2021年7月23日(金・祝)14:00~16:00
参加者:8名
[ガラスの動物園]
日時:2021年7月24日(土)10:30~12:30
参加者:18名
日時:2021年7月24日(土)14:00~16:00
参加者:23名
[アニマル雑技団 空中サーカス編]
日時:2021年7月25日(日)10:30~12:30
参加者:25名
日時:2021年7月25日(日)14:00~16:00
参加者:15名
[これがわたしのグル・による・ピン!]
日時:2021年8月9日(月・祝)10:30~12:30
参加者:28名
日時:2021年8月9日(月・祝)14:00~16:00
参加者:41名
[まるまるアニマル何になる?]
日時:2021年9月4日(土)10:30~12:30
参加者:20名
日時:2021年9月4日(土)14:00~16:00
参加者:17名
[銀職人]
日時:2021年10月16日(土)10:30~12:30
参加者:9名
日時:2021年10月16日(土)14:00~16:00
参加者:17名
[親子で感染予防グッズ作り]
日時:2021年10月30日(土)10:30~12:30
参加者:14名
日時:2021年10月30日(土)14:00~16:00
参加者:19名
日時:2021年10月31日(日)10:30~12:30
参加者:18名
日時:2021年10月31日(日)14:00~16:00
参加者:31名
※大分県立芸術文化短期大学との連携
[開幕!ハット劇場]
日時:2021年11月7日(日)10:30~12:30
参加者:13名
日時:2021年11月7日(日)14:00~16:00
参加者:10名
[虹色わたあめ]
日時:2021年11月20日(土)10:30~12:30
参加者:9名
日時:2021年11月20日(土)14:00~16:00
参加者:14名
[カードdeジオラマ]
日時:2021年11月23日(火・祝)10:30~12:30
参加者:42名
日時:2021年11月23日(火・祝)14:00~16:00
参加者:9名
[撫って編んで、何にする?]
日時:2021年11月27日(土)10:30~12:30
参加者:7名
日時:2021年11月27日(土)14:00~16:00
参加者:18名
[そのこどんな子?]
日時:2021年12月5日(日)10:30~12:30
参加者:8名
日時:2021年12月5日(日) 14:00~16:00

参加者:10名
[ひかりのアンモナイト]
日時:2021年12月11日(土)10:30~12:30
参加者:12名
日時:2021年12月11日(土)14:00~16:00
参加者:16名
[たまごフレーム]
日時:2021年12月18日(土)10:30~12:30
参加者:28名
日時:2021年12月18日(土)14:00~16:00
参加者:22名
[いのちいっぱい、ドバラシャ]
日時:2022年1月15日(土)10:30~12:30
参加者:22名
日時:2022年1月15日(土)14:00~16:00
参加者:16名
[真昼の星座]
日時:2022年2月23日(水・祝)10:30~12:30
参加者:14名
日時:2022年2月23日(水・祝)14:00~16:00
参加者:10名
[りぼんびよん星人]
日時:2022年2月27日(日)10:30~12:30
参加者:23名
日時:2022年2月27日(日)14:00~16:00
参加者:23名
[ててんがてん]
日時:2022年3月6日(日)10:30~12:30
参加者:15名
[みつけ手! アニマル]
日時:2022年3月20日(日)10:30~12:30
参加者:28名
日時:2022年3月20日(日)14:00~16:00
参加者:41名
※新型コロナウイルス感染拡大防止のため、
「どなたでもワークショップ」3講座6コース中止。

特別ワークショップ&レクチャー

●春のワークショップ
場所:OPAM 2Fアトリエ、3Fコレクション展示室
[こるボックス]
日時:2021年5月22日(土)10:30~12:00
参加者:4歳以上の未就学児とその保護者が中心 9名
日時:2021年5月22日(土)14:00~15:30
参加者:小中学生が中心 5名
[虹の刃をつくらう]
日時:2021年5月29日(土)10:30~12:00
参加者:4歳以上の未就学児とその保護者が中心 12名
日時:2021年5月29日(土)14:00~15:30
参加者:小中学生が中心 7名

●夏のワークショップ
場所:OPAM 2Fアトリエ、3Fコレクション展示室
[モビール迷路]
日時:2021年6月12日(土)10:30~12:00
参加者:4歳以上の未就学児とその保護者が中心 12名
日時:2021年6月12日(土)14:00~15:30
参加者:小中学生が中心 8名
[ペットんべとん]
日時:2021年6月19日(土)10:30~12:00
参加者:4歳以上の未就学児とその保護者が中心 13名
日時:2021年6月19日(土)14:00~15:30
参加者:小中学生が中心 7名
[回転デコレーション大盛り♡]
日時:2021年6月26日(土)10:30~12:00
参加者:4歳以上の未就学児とその保護者が中心 11名
日時:2021年6月26日(土)14:00~15:30
参加者:小中学生が中心 5名
[動物王国~天井裏は夢の国]
日時:2021年8月7日(土) 10:30~12:00
参加者:4歳以上の未就学児とその保護者が中心 7名
日時:2021年8月7日(土)14:00~15:30
参加者:小中学生が中心 7名
日時:2021年8月8日(日)10:30~12:00
参加者:4歳以上の未就学児とその保護者が中心 8名
日時:2021年8月8日(日)14:00~15:30
参加者:小中学生が中心 6名
[ティメトドン~新説進化図譜]
日時:2021年8月14日(土)10:30~12:00

参加者:4歳以上の未就学児とその保護者が中心 6名
日時:2021年8月14日(土)14:00~15:30
参加者:小中学生が中心 5名
日時:2021年8月15日(日)14:00~15:30
参加者:小中学生が中心 4名
[動物こっこ なりきり隊がゆく~GOGOおれたちや哺乳類]
日時:2021年8月28日(土)10:30~12:00
参加者:4歳以上の未就学児とその保護者が中心 4名
日時:2021年8月28日(土)14:00~15:30
参加者:小中学生が中心 4名
日時:2021年8月29日(日)10:30~12:00
参加者:4歳以上の未就学児とその保護者が中心 10名
日時:2021年8月29日(日)14:00~15:30
参加者:小中学生が中心 2名
※新型コロナウイルス感染拡大防止のため、
「冬のワークショップ みんなの土曜アトリエ」
2講座4コース中止。

●色材パフォーマンス
場所:OPAM 2Fアトリエ
対象:中学生から一般
[藍の色]
日時:2021年4月17日(土)13:30~14:30
参加者:11名
日時:2021年4月17日(土)15:30~16:30
参加者:14名
[紅の色]
日時:2021年5月15日(土)13:30~14:30
参加者:5名
日時:2021年5月15日(土)15:30~16:30
参加者:8名
[大地の色、地球の色]
日時:2021年6月5日(土)13:30~14:30
参加者:7名
日時:2021年6月5日(土)15:30~16:30
参加者:7名
[展色材]
日時:2021年7月3日(土)13:30~14:30
参加者:8名
日時:2021年7月3日(土)15:30~16:30
参加者:11名
[動物から色をつくる]
日時:2021年8月21日(土)13:30~14:30
参加者:4名
日時:2021年8月21日(土)15:30~16:30
参加者:6名
[白をつくる]
日時:2021年10月23日(土)13:30~14:30
参加者:5名
日時:2021年10月23日(土)15:30~16:30
参加者:6名
[植物で染める]
日時:2022年2月5日(土)13:30~14:30
参加者:12名
日時:2022年2月5日(土)15:30~16:30
参加者:13名

●特別ワークショップ・レクチャー
'What's Museum? II お米とお酒を視る'
[顔しの世界へようこそ]
講師:細矢剛(国立科学博物館 植物研究部 部長 兼 筑波実験植物園 園長、日本菌学会 会長)
場所:OPAM 2F研修室
日時:2021年9月19日(日)13:30~15:30
参加者:中学生から一般 35名
[道具の博物誌~農耕図絵馬から読み解く道具と暮らし]
講師:菅野剛宏(大分県立歴史博物館学芸調査課長)
場所:OPAM 2Fアトリエ・体験学習室
日時:2021年9月25日(土)13:30~15:30
参加者:中学生から一般 20名
[大分県のお米~内成物語]
講師:竹内康訓(写真家)
場所:OPAM 2Fアトリエ・体験学習室
日時:2021年10月2日(土)13:30~15:30
参加者:中学生から一般 19名
[薬にまみれて]
場所:OPAM 2Fアトリエ・体験学習室
日時:2021年10月3日(日)10:30~12:00

参加者:4歳以上の未就学児とその保護者 12名
[撫って編んで、何にする?]
場所:OPAM 2Fアトリエ・体験学習室
日時:2021年10月9日(土)10:30~12:00
参加者:小・中学生 6名
●特別連続ワークショップ・レクチャー
未知っち、見ちっち vol.2「Color&Science」
場所:OPAM 2Fアトリエ・体験学習室
対象:中学生から一般
[花の色を視る~科学者と表現者の視点から]
講師:村井良徳(国立科学博物館 植物研究部 多様性解析・保全グループ 研究主幹 兼 筑波実験植物園 研究員、標本資料センター コレクションマネージャー)
講師:古屋絵菜(染色家)
日時:2021年11月6日(土)13:30~15:30
参加者:41名
[花の色を科学する~結晶標本が語る色素の魅力]
講師:水野貴行(国立科学博物館 植物研究部 多様性解析・保全グループ 兼 筑波実験植物園 研究員)
講師:榎本寿紀(大分県立美術館 学芸企画課 教育普及室 室長)
日時:2021年11月13日(土)13:30~15:30
参加者:40名
[色を探る・色を考える~ 歴史・科学・実践から綿織物を視る]
講師:杵名貴彦(国立科学博物館 理工学研究部 科学技術史グループ 兼 産業技術史資料情報センター 研究主幹)
講師:杵名弘美(絵画技法材料研究家、日本画家、沖縄県立芸術大学 非常勤講師)
日時:2021年11月21日(日)13:30~15:30
参加者:25名
[“白”から考える生命の色彩がし]
講師:真鍋真(国立科学博物館 副館長・研究調整役、標本資料センター コレクションディレクター)
講師:佐野監(彫刻家)
日時:2021年12月4日(土)13:30~15:30
参加者:37名
未知っち、見ちっち@生命のれぎし
場所:OPAM 2Fアトリエ・体験学習室
対象:中学生から一般
[超巨大火山と生命進化の謎 地球規模の超巨大噴火が生 命進化を加速させた?]
講師:佐野貴司(国立科学博物館 地学研究部 鉱物科学研究グループ グループ長)
日時:2022年1月16日(日)13:30~15:30
参加者:28名
※新型コロナウイルス感染拡大防止のため、1講座中止。

●特別ワークショップ「手が語るIII」
場所:OPAM 2Fアトリエ・体験学習室
[私の手からみる“私”と“ヒト”の歴史]
講師:坂上和弘(国立科学博物館 人類研究部 人類史研究グループ長)
日時:2022年3月5日(土)10:30~15:30
参加者:中学生から一般
[掌(たなごころ)の变幻 ~美術に頼れた手の表現とその意味~]
講師:飯内佐斗司(彫刻家、奈良県立美術館 館長)
日時:2022年3月12日(土)13:30~15:30
参加者:中学生から一般
[動く手を作ろう!]
講師:飯内佐斗司(彫刻家、奈良県立美術館 館長)
日時:2022年3月13日(日)10:30~13:30
参加者:小学生とその保護者
[触ると触れる 私の“まる”をつくる]
講師:横尾哲生(造形作家)
日時:2022年3月19日(土)10:30~15:30
参加者:中学生から一般
[触ると触れる~そとと、やさしく]
日時:2022年3月26日(土)10:30~12:00
参加者:4歳以上の未就学児とその保護者が中心
日時:2022年3月26日(土)14:00~15:30
参加者:小学生が中心
[手がキャンパス~カラフル・ハンド]
日時:2022年3月27日(日)10:30~12:00
参加者:4歳以上の未就学児とその保護者が中心

日時:2022年3月27日(日)14:00~15:30
参加者:小学生が中心
[トントコトントン、釘打ちオブジェ]
日時:2022年3月28日(月)10:30~12:00
参加者:4歳以上の未就学児とその保護者が中心
日時:2022年3月29日(月)14:00~15:30
参加者:小学生が中心
[影のカタチの大変身]
日時:2022年3月29日(火)10:30~12:00
参加者:4歳以上の未就学児とその保護者が中心
日時:2022年3月29日(火)14:00~15:30
参加者:小学生が中心
●教育普及活動展示
[びじゅつって、すげえ! 2020-2021 この1年の進化と深化]
場所:OPAM 2Fアトリエ・体験学習室
日時:2021年4月23日(金)~5月6日(木)開館時間
[What's Museum? II お米とお酒を視る]
場所:OPAM 2Fアトリエ・体験学習室
日時:2021年9月18日(土)~10月10日(日)開館時間(ガラス越しの鑑賞)
※中に入っのの見学・鑑賞可能日時あり
9月18日(土)・20日(月・祝)・23日(木・祝)・26日(日)11:00~17:00
10月3日(日)・9日(土)13:00~17:00
10月10日(日)11:00~17:00
[未知っち、見ちっち vol.II Color&Science]
場所:OPAM 2Fアトリエ
日時:2021年12月25日(土)~2022年1月10日(月・祝)開館時間
[佐伯市立本匠中学校作品展]
場所:OPAM 2F体験学習室
日時:2021年12月25日(土)~2022年1月10日(月・祝)開館時間
次世代育成講座
●OPAM美術館
対象:中学生、高校生
[自己紹介・美術って何?]
場所:OPAM 2Fアトリエ・体験学習室
日時:2021年6月20日(日)13:30~15:30
参加者:26名
[積み木とモザイク]
場所:OPAM 2Fアトリエ・体験学習室
日時:2021年7月11日(日)13:30~15:30
参加者:25名
[音を形に・色に]
講師:小林武文(ミュージシャン)
場所:OPAM 2Fアトリエ・体験学習室
日時:2021年8月1日(日)13:30~15:30
参加者:26名
[繰り返しの世界]
講師:中島さち子(ジャズピアニスト・作曲家)
場所:OPAM 2Fアトリエ・体験学習室
日時:2021年10月17日(日)13:30~15:30
参加者:22名
[即興と表現]
講師:鈴木広志(サクソフォン奏者・作曲家)
場所:OPAM 2Fアトリエ・体験学習室
日時:2021年11月3日(水)13:30~15:30
参加者:14名
[インスタレーション制作]
場所:OPAM 2Fアトリエ・体験学習室
日時:2021年11月14日(日)13:30~15:30
参加者:12名
[招待状をつくる&撮影]
場所:OPAM 2Fアトリエ・体験学習室
日時:2021年12月12日(日)13:30~15:30
参加者:15名
[コンサート]
演奏:鈴木広志/サクソフォン、中島さち子/ピアノ、小林武文/ドラム
場所:iichikoアトリウムフラザ
日時:2022年2月26日(土)
参加者:美術部員と一般70名+立見約30名
※新型コロナウイルス感染拡大防止のため、4回中止。

スクールプログラム

●びじゅつかんの旅
■社会福祉法人 慈光会 にしきこども園 4・5歳児 32名
[びじゅつかんの旅じたく カラフルくじやりん]
日時:2021年5月12日(水)10:00~11:30
■佐伯市立青山小学校 全学年 11名
■佐伯市立青山幼稚園 5歳児 1名
[びじゅつかんの旅じたく ガラスと水晶 キラッキラック]
日時:2021年5月27日(木)14:00~15:30
■九重町立東飯田小学校 3・4年生 34名
[びじゅつかんの旅 一緒に視る]
日時:2021年9月21日(火)10:00~12:00
■九重町立東飯田小学校 1・2年生 37名
[びじゅつかんの旅 一緒に視る]
日時:2021年9月22日(水)10:00~12:00
■九重町立東飯田小学校 5・6年生 35名
[びじゅつかんの旅 一緒に視る]
日時:2021年9月24日(金)10:00~12:00
■学校法人 ひまわり学園 認定こども園 ひまわり幼稚園 年中 73名
[びじゅつかんの旅じたく たまごころ]
日時:2021年10月4日(月)10:00~10:45 (年中 26名)
日時:2021年10月4日(月)10:50~11:35 (年中 22名)
日時:2021年10月4日(月)11:40~12:25 (年中 25名)
■由布市立石城小学校 5・6年生 15名
[びじゅつかんの旅じたく ドバラシャー]
日時:2021年10月8日(金)9:40~12:00
■佐伯市立本匠中学校 全学年 18名
[びじゅつかんの旅じたく 素材の変容・鍍金を見る・知る・触る オリエンテーション]
日時:2021年10月11日(月)14:20~15:10
■由布市立石城小学校 5・6年生 14名
[びじゅつかんの旅 一緒に視る]
日時:2021年10月15日(金)10:00~11:50
■大分大学教育学部附属特別支援学校 中学部全学年 13名
[びじゅつかんの旅 一緒に視る]
日時:2021年10月15日(金)13:20~14:20
■九重町立南山田小学校 6年生 15名
[びじゅつかんの旅 一緒に視る+遊んで、描いて、つくる]
日時:2021年10月22日(金)10:00~11:30/12:50~14:00
■九重町立野矢小学校 全学年 27名
[びじゅつかんの旅 一緒に視る]
日時:2021年10月25日(月)10:30~12:00
■佐伯市立青山小学校 2~6年生 11名
[びじゅつかんの旅 一緒に視る]
日時:2021年10月28日(木)10:00~12:00
■学校法人 ひまわり学園 認定こども園 ひまわり幼稚園 年長 77名
[びじゅつかんの旅じたく こるこるピンポン]
日時:2021年11月9日(火)10:00~11:00 (年長 38名)
日時:2021年11月9日(火)11:00~12:00 (年長 39名)
■日田市立若宮小学校 6年生 15名
[びじゅつかんの旅じたく ぼわんぼわん]
日時:2021年11月12日(金)14:00~15:30
■学校法人 ひまわり学園 認定こども園 ひまわり幼稚園 年長 40名
[びじゅつかんの旅 一緒に視る]
日時:2021年11月15日(月)10:20~11:20
■学校法人 ひまわり学園 認定こども園 ひまわり幼稚園 年長 39名
[びじゅつかんの旅 一緒に視る]
日時:2021年11月15日(月)10:40~11:40
■杵築市立東小学校 5・6年生 28名
[びじゅつかんの旅じたく ふわもこ]
日時:2021年11月18日(木)13:45~15:15
■豊後大野市立三重第一小学校 5年生 61名
[びじゅつかんの旅 一緒に視る]
日時:2021年11月18日(木)10:00~11:30
■日田市立若宮小学校 6年生 15名
[コンサート]
[びじゅつかんの旅 一緒に視る]
日時:2021年11月19日(金)10:00~12:00
■社会福祉法人 慈光会 にしきこども園 5歳児 16名
[びじゅつかんの旅 ふわもこキャラクターと一緒に視る]
日時:2021年11月22日(月)10:30~12:00/13:30~15:00
■杵築市立東小学校 5・6年生 29名
[びじゅつかんの旅 一緒に視る]
日時:2021年11月24日(水)10:00~12:00
■佐伯市立本匠中学校 全学年 18名

INDEX 実施一覧

[びじゅつかんの旅したく
素材の変容 鍍金を見る・知る・触る]
日時:2021年11月26日(金)10:20~12:10/13:10~15:20
■大分市立大道小学校 1年生 115名
[びじゅつかんの旅したく
ころころピンポン これでどうだ! 10,000個のメカ花火]
日時:2021年12月7日(火)8:30~10:00
■佐伯市立本匠中学校 全学年 18名
[びじゅつかんの旅したく
素材の変容 鍍金を見る・知る・触る]
日時:2021年12月7日(火)13:20~14:10
■日田市立日隈小学校 5年生 44名
[びじゅつかんの旅 一緒に視る]
日時:2021年12月9日(木)13:00~15:00
■大分市立大道小学校 1年生 116名
[びじゅつかんの旅 一緒に視る]
日時:2021年12月14日(火)10:00~11:30 (1・2組 58名)
日時:2021年12月15日(水)10:00~11:30 (3・4組 58名)
■佐伯市立本匠中学校 全学年 17名
[びじゅつかんの旅
一緒に視る+素材の変容 鍍金を見る・知る・触る]
日時:2021年12月23日(木)10:00~12:00/13:00~14:30
■由布市立庄内中学校 1年生 41名
[びじゅつかんの旅したく 紙建築ところころボール]
日時:2022年1月14日(金)13:45~15:35
※新型コロナウイルス感染拡大防止のため、「びじゅつかんの旅
したく」2回、「びじゅつかんの旅」7回中止。

連携プログラム

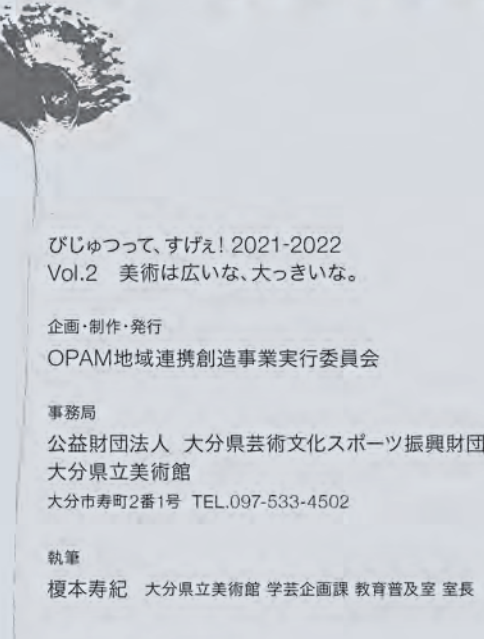
アウトリーチ・プログラム(出前ワークショップ)
■学校法人 フレーベル学園 認定三芳幼稚園 5歳児 53名
[ぐわぐわコペン]
日時:2021年5月18日(火)10:00~11:00 (5歳児 29名)
日時:2021年5月18日(火)11:00~12:00 (5歳児 24名)
■佐伯市立東雲小学校 3~6年生 23名
[ザ・ピグメント 佐伯色をつくる①]
日時:2021年6月4日(金)8:30~12:00
■別府市立東山幼、小、中学校 中学1~3年生 15名
[東山小、中学校の色 その①]
日時:2021年6月15日(火)13:50~15:50
■竹田市立城原小学校 4~5年生 10名
[華麗なるアクションペインティング]
日時:2021年6月24日(木)9:30~11:00
■大分市立西の台小学校 5年生 163名
[たたんで、ひらいて、きて、ポン!]
日時:2021年6月30日(水)8:30~9:15 (4組 34名)
日時:2021年6月30日(水)9:20~10:05 (5組 32名)
日時:2021年6月30日(水)10:25~11:10 (1組 33名)
日時:2021年6月30日(水)11:15~12:00 (2組 33名)
日時:2021年6月30日(水)13:10~13:55 (3組 31名)
■佐伯市立東雲小学校 3~6年生 27名
[ザ・ピグメント 佐伯色をつくる②]
日時:2021年7月1日(木)8:30~12:00
■学校法人 ひまわり学園 認定こども園 ひまわり幼稚園
にじ組 25名
[ばたふわ]
日時:2021年7月2日(金)14:15~15:15
■佐伯市立佐伯小学校
[ぼわんぼわん] 3年生 42名
日時:2021年7月6日(火)10:25~12:00
[ばたふわ] 2年生 53名
日時:2021年7月6日(火)13:45~15:20
■別府市立東山幼、小、中学校 中学1~3年生 15名
[東山小、中学校の色 その②]
日時:2021年7月9日(金)13:50~15:50
■佐伯市立切畑小学校 6年生 19名
[カラフルチップパラダイス]
日時:2021年7月19日(月)10:30~12:05
■大分市河原内保育所 2~5歳児 10名
[ばたふわ]
日時:2021年7月29日(木)9:30~11:00
■竹田市立都野小学校 1・2年生 17名
[ばたふわ]
日時:2021年9月28日(火)10:30~12:00
■豊後大野市立緒方中学校
[身体がキャンパス] 3年生 21名
日時:2021年10月1日(金)9:40~10:30

[身体がキャンパス] 1年生 13名
日時:2021年10月1日(金)10:40~11:30
[身体がキャンパス] 2年生 21名
日時:2021年10月1日(金)11:40~12:30
■大分市立碩田学園 2年生 115名
[カラフル・インスタレーション 紙いっぱい]
日時:2021年10月6日(水)8:40~9:25 (1組 30名)
日時:2021年10月6日(水)9:35~10:20 (2組 28名)
日時:2021年10月6日(水)10:30~11:15 (3組 27名)
日時:2021年10月6日(水)11:25~12:10 (4組 30名)
■大分市立西の台小学校 4年生 132名
[虹の刃をつくろう]
日時:2021年10月12日(火)8:30~10:05 (1組 33名)
日時:2021年10月12日(火)8:30~10:05 (2組 33名)
日時:2021年10月12日(火)10:25~12:00 (3組 33名)
日時:2021年10月12日(火)10:25~12:00 (4組 33名)
■竹田市立緑ヶ丘中学校
[ぼわんぼわんロング] 1年生 20名
日時:2021年10月19日(火)9:15~10:05
[ぼわんぼわんロング] 2年生 18名
日時:2021年10月19日(火)10:15~11:05
[ぼわんぼわんロング] 3年生 18名
日時:2021年10月19日(火)11:15~12:05
■竹田市立白丹小学校 1・2・4年生 6名
[ピカばた]
日時:2021年10月19日(火)13:35~15:10
■杵築市立北杵築小学校 2・3年生 9名
[カラフルチップパラダイス]
日時:2021年10月21日(木)9:00~10:15
■杵築市立北杵築小学校 6年生 12名
[まるまるアニマル何になる?]
日時:2021年10月21日(木)10:30~12:00
■中津市立穂田小学校 3・4年生 18名
[虹の刃をつくろう]
日時:2021年10月28日(木)14:00~15:30
■杵築市立守江幼稚園 4・5歳児 3名
[ドバラシャー]
日時:2021年10月29日(金)10:00~11:30
[ころころピンポン]
日時:2021年11月5日(金)9:20~11:30
■由布市立阿南小学校 1・2年生 18名
[ばたふわ]
日時:2021年11月8日(月)10:35~12:10
■大分市立敷戸小学校はばたき分校 2~6年生 14名
[ばたふわ]
日時:2021年11月10日(水)10:20~11:55
■日田市立若宮小学校 4年生 19名
[虹の刃をつくろう]
日時:2021年11月12日(金)10:30~12:00
■姫島村立姫島中学校
[ザ・ピグメント「姫島色をつくる」]1年生 14名
日時:2021年11月16日(火)10:40~12:30
[ザ・ピグメント「磨けば宝石、砕けば顔料」]2年生 9名
日時:2021年11月16日(火)13:50~15:40
■杵築市立東小学校
[ばたふわ]1・2年生 44名
日時:2021年11月18日(木)8:45~10:15
[ぼわんぼわん]3・4年生 43名
日時:2021年11月18日(木)10:45~12:15
■竹田市立竹田中学校 2年生 48名
[ぼわんぼわんロング]
日時:2021年11月25日(木)9:35~10:20 (2組 24名)
日時:2021年11月25日(木)10:30~12:15 (1組 24名)
■姫島村立姫島小学校
[蝶になる]1・2年生 17名
日時:2021年11月30日(火)8:35~10:10
[バタバタバタフライ]3・4年生 19名
日時:2021年11月30日(火)10:30~12:05
[わたしの青い色]5・6年生 20名
日時:2021年11月30日(火)13:20~14:50
■由布市立庄内中学校 3年生 29名
[銀職人]
日時:2021年12月3日(金)8:50~10:40
■大分市立神崎小学校
[カラフル・ぐにゃりん]1~3年生 25名
日時:2021年12月10日(金)9:00~10:30
[ころボックス]4~6年生 33名

日時:2021年12月10日(金)10:40~12:15
■社会福祉法人 三重福祉会 ひがしこども園 5歳児 17名
[ばたふわ]
日時:2021年12月16日(木)10:00~12:00
■由布市立庄内中学校 2年生 44名
[たたんで、ひらいて、きて、ポン!]
日時:2021年12月17日(金)13:25~15:05
■別府市立内蔵保育所 4歳児 10名
[ころころボール]
日時:2022年1月13日(木)9:30~11:00
■有限会社大分ふたば ふたばこども園 4・5歳児 35名
[ばたふわ]
日時:2022年1月18日(火)10:00~11:30
■日出町立日出小学校 2年生 60名
[びよんびよんスティック]
日時:2022年3月1日(火)8:50~12:00
■学校法人 みのり学園 認定こども園 三隈幼稚園
5歳児 21名
[もふもふのふしぎ]
日時:2022年3月16日(水)10:00~11:00
※新型コロナウイルス感染拡大防止のため、
「出前ワークショップ」16件中止。
先生のためのワークショップ
[小4ミュージアムツアーのためのガイドスタッフ研修]
場所:OPAM 1Fアトリウム、2Fアトリエ・研修室、3Fホワイエ・コレ
クション展示室
日時:2021年6月7日(月)14:50~16:30
参加者:30名(引率教員)
[幼稚園新規採用教員研修に係る園外研修]
場所:OPAM 2Fアトリエ、3Fホワイエ・コレクション展示室
日時:2021年6月17日(木)13:00~16:00
参加者:30名(幼稚園新規採用教員)
[テーマ別研修「美術館・埋蔵文化財センター活用研修」
(小)]
場所:OPAM 2Fアトリエ、3Fホワイエ・コレクション展示室
日時:2021年6月25日(金)10:00~12:30
参加者:6名(小学校教諭)
[ひまわり幼稚園 ワークショップ研修会]
場所:ひまわり幼稚園
日時:2021年7月2日(金)15:30~16:30
参加者:10名(学校法人 ひまわり学園 認定こども園 ひまわり
幼稚園教員)
[びじゅつかんの旅 ガイドスタッフ研修]
場所:OPAM 2Fアトリエ、3Fコレクション展示室
日時:2021年7月11日(日)10:10~12:00
参加者:3名(大分県立美術館 新規登録ガイドスタッフ)
[幼稚園中堅教諭等資質向上研修に係る園外研修]
場所:OPAM 2Fアトリエ、3Fホワイエ・コレクション展示室
日時:2021年7月21日(水)13:00~16:00
参加者:20名(幼稚園教諭)
[認定こども園新規採用保育教諭研修に係る園外研修]
場所:OPAM 2Fアトリエ・体験学習室、3Fホワイエ・コレク
ション展示室
日時:2021年7月28日(水)13:00~16:00
参加者:40名(認定こども園新規採用保育教諭)
[臼杵市小学校教職員園工部会研修]
場所:場所:OPAM 2Fアトリエ
日時:2021年7月30日(金) 10:00~12:00
参加者:12名(小学校教諭)
[びじゅつかんの旅 ガイドスタッフ研修]
場所:OPAM 2Fアトリエ、3Fコレクション展示室
日時:2021年8月22日(日)10:30~11:30
参加者:15名(大分県立美術館ガイドスタッフ)
[ひまわり幼稚園 ワークショップ研修会]
場所:ひまわり幼稚園
日時:2021年10月4日(月)14:30~15:30
参加者:15名(学校法人 ひまわり学園 認定こども園 ひまわり
幼稚園教員)
[素材の変容 鍍金を見る・知る・触る
オリエンテーション]
場所:佐伯市立本匠中学校
日時:2021年10月11日(月)14:20~15:10

参加者:12名(佐伯市立本匠中学校 教員)
[ステップアップ研修「教科指導2」]
場所:OPAM 2Fアトリエ、3Fホワイエ・コレクション展示室
日時:2021年10月26日(火)10:10~12:30
参加者:29名(小学校教諭)
[ステップアップ研修「教科指導2」]
場所:OPAM 2Fアトリエ、3Fホワイエ・コレクション展示室
日時:2021年10月26日(火)14:00~16:20
参加者:29名(小学校教諭)
[ステップアップ研修1「教科指導2」]
場所:OPAM 2Fアトリエ、3Fホワイエ・コレクション展示室
日時:2021年10月27日(水)10:10~12:30
参加者:28名(小学校教諭)
[ステップアップ研修1「教科指導2」]
場所:OPAM 2Fアトリエ、3Fホワイエ・コレクション展示室
日時:2021年10月27日(水)14:00~16:20
参加者:30名(小学校教諭)
[素材の変容 鍍金を見る・知る・触る]
講師:橋本真之(鍍金造形家)
場所:佐伯市立本匠中学校
日時:2021年11月26日(金)10:20~12:10/13:10~15:20
参加者:12名(佐伯市立本匠中学校 教員)
[素材の変容 鍍金を見る・知る・触る]
場所:佐伯市立本匠中学校
日時:2021年12月7日(火)13:20~14:10
参加者:12名(佐伯市立本匠中学校 教員)
[一緒に視る+素材の変容 鍍金を見る・知る・触る]
講師:橋本真之(鍍金造形家)
場所:OPAM 1Fアトリウム・企画展示室、2Fアトリエ・体験学
習室、3Fホワイエ・企画展示室
日時:2021年12月23日(木)10:00~12:00/13:00~14:30
参加者:12名(佐伯市立本匠中学校 教員)
[三隈幼稚園 ワークショップ研修会]
日時:2022年3月16日(水)14:30~16:00
参加者:学校法人みのり学園 認定こども園 三隈幼稚園 教員
※新型コロナウイルス感染拡大防止のため、2講座中止。
教育機関との連携
[小4ミュージアムツアー「ミュージアムを活用した
美術教育実践事業」]
場所:OPAM 2F研修室、3Fホワイエ・コレクション展示室
日時:2021年9月27日(月)10:00~12:00
参加者:14名(由布市立川西小学校全学年)
日時:2021年10月4日(月)10:00~12:00
参加者:23名(宇佐市立宇佐小学校4年生)
日時:2021年10月5日(火)10:00~12:00
参加者:43名(日出市立藤原小学校4年生)
日時:2021年10月7日(木)10:00~12:00
参加者:56名(別府市立春木川小学校4年生)
日時:2021年10月15日(金)10:00~12:00
参加者:70名(由布市立扶間小学校4年生)
日時:2021年10月15日(金)13:00~15:00
参加者:36名(由布市立扶間小学校4年生)
日時:2021年10月18日(月)10:00~12:00
参加者:28名(臼杵市立北小学校4~6年生)
日時:2021年10月22日(金)10:00~12:00
参加者:41名(国東市立安岐小学校4年生)
参加者:21名(宇佐市立八幡小学校4年生)
日時:2021年10月25日(月)13:00~15:00
参加者:60名(別府市立南立石小学校4年生)
日時:2021年10月28日(木)10:00~12:00
参加者:26名(津久見市立千怒小学校4年生)
日時:2021年10月28日(木)13:00~15:00
参加者:12名(中津市立上津小学校3・4年生)
日時:2021年10月29日(金)10:00~12:00
参加者:21名(日田市立若宮小学校4年生)
日時:2021年10月29日(金)13:00~15:00
参加者:55名(中津市立豊田小学校5年生)
日時:2021年11月11日(木)10:00~12:00
参加者:27名(佐伯市立明治小学校4年生)
日時:2021年11月11日(木)13:00~15:00
参加者:26名(竹田市立萩小学校4年生)
日時:2021年11月12日(金)10:00~12:00
参加者:74名(大分市立小佐井小学校4年生)
日時:2021年11月12日(金)13:00~15:00

参加者:23名(宇佐市立佐田小学校全学年)
日時:2021年11月19日(金)10:00~12:00
参加者:59名(別府市立朝日小学校4年生)
日時:2021年11月19日(金)13:00~15:00
参加者:30名(別府市立朝日小学校4年生)
日時:2021年12月9日(木)10:00~12:00
参加者:10名(宇佐市立津房小学校4・5年生)
日時:2021年12月10日(金)10:00~12:00
参加者:23名(中津市立和田小学校4年生)
日時:2021年12月13日(月)10:00~12:00
参加者:40名(宇佐市立四日市南小学校4年生)
※新型コロナウイルス感染拡大防止のため、4校中止。
大分県芸術文化スポーツ振興財団広報連携推
進課との連携事業
[美術&音楽ワークショップ]
演奏:鈴木広志(サクソフォン)、中島さち子(ジャズピアノ)、
小林武文(パーカッション)
場所:大分市立碩田学園大アリーナ
日時:2021年11月4日(木)9:30~11:30
参加者:120名(大分市立碩田学園2年生)
[美術&音楽ワークショップ]
場所:iichikoグラシアタ、OPAM
日時:2022年3月7日(月)9:30~14:30
参加者:大分市立碩田学園2年生
おおいた障がい者芸術文化支援センターとの
連携事業
[オープンアトリエinたけた〜ぼわんぼわん祭り♪]
場所:グランツたけた 康太郎ホール
日時:2021年9月26日(日)10:30~12:00
参加者:17名(小学生以上どなたでも)
※新型コロナウイルス感染拡大防止のため、1講座中止。
サポーター・教育普及グループ活動
場所:OPAM 2Fアトリエ
[オリエンテーション]
日時:2021年4月18日(日)14:00~16:00
参加者:16名
[ワークショップ準備・モザイク制作]
日時:2021年6月13日(日)14:00~16:00
参加者:14名
[新ワークショップ実験]
日時:2021年7月18日(日)14:00~16:00
参加者:8名
[ワークショップ材料整理]
日時:2021年8月8日(日)14:00~16:00
参加者:4名
[ステンシルでつくる麗しの世界]
日時:2021年9月5日(日)14:00~16:00
参加者:4名
[アートカードで遊ぶ]
日時:2021年10月24日(日)14:00~16:00
参加者:11名
[ワークショップ試作]
日時:2021年11月28日(日)14:00~16:00
参加者:9名
[缶バッジ制作]
日時:2021年12月19日(日)14:00~16:00
参加者:8名
[教材ボックス整理]
日時:2022年1月15日(土)14:00~16:00
参加者:8名
[ワークショップ試作]
日時:2022年2月20日(日)14:00~16:00
参加者:5名
[ワークショップ試作]
日時:2022年3月21日(月・祝)14:00~16:00



びじゅつって、すげえ! 2021-2022
Vol.2 美術は広いな、大きいの。
企画・制作・発行
OPAM地域連携創造事業実行委員会
事務局
公益財団法人 大分県芸術文化スポーツ振興財団
大分県立美術館
大分市寿町2番1号 TEL.097-533-4502
執筆
榎本寿紀 大分県立美術館 学芸企画課 教育普及室 室長
編集協力:ラルゴ 井上裕子
デザイン:ディ・エア 佐々木ツヨシ
印刷:株式会社 明文堂印刷
2022年3月発行
※本誌に掲載した記事・写真・イラスト等の無断転載は禁じます。
OPAM地域連携創造事業実行委員会は、大分県芸術文化スポ
ーツ振興財団(大分県立美術館)、大分大学、大分県立芸術文化短
期大学、大分県、大分県教育委員会と構成された実行委員会組織
です。国の助成を受け、地域や学校と連携しながら「美術による人
材育成」を目的とした活動を行っています。
文化庁
令和3年度 文化庁
地域と共創した博物館創造活動支援事業



大分県立美術館教育普及室

<http://www.opom.jp>

<http://www.facebook.com/OPAMeducation>